

2024 事業年度

事業報告書

日本中央競馬会

I 業務の実施状況

1. 2024 事業年度の業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

・開催回数 36 回 ・開催日数 288 日

(内訳)

競馬場	開催回数	開催日数	競馬場	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	14 日	東京競馬場	5 回	44 日
函館競馬場	1 回	12 日	中京競馬場	4 回	29 日
福島競馬場	3 回	20 日	京都競馬場	7 回	60 日
新潟競馬場	4 回	28 日	阪神競馬場	2 回	16 日
中山競馬場	5 回	41 日	小倉競馬場	3 回	24 日

② 売得金及び開催競馬場入場人員

売 得 金	3兆3,428億 926万5,300円
開催競馬場入場人員	513万5,167人

③ 国庫納付金

第 1 国庫納付金	3,342億8,092万6,530円
第 2 国庫納付金	322億7,353万9,717円

④ 主な業績項目の数値

項 目		数 式	本事業年度数値
競馬開催計画 達成率	開催回数	開催実施回数／開催計画回数	100%
	開催日数	開催実施日数／開催計画日数	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	売得金／職員数	1,851,971千円
	対入場人員	開催競馬場入場人員／職員数	2,844人
対売上収益率		剰余金／売得金	1.93%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

〔J R A所属〕				〔その他〕 ※ i ii	
登録の種類	登録の数	取消の数	本事業年度末数	国際関係	地方関係
馬主の登録	171 名	107 名	2,859 名	9(4) 名	32 名
馬 の 登 録	5,532 頭	5,399 頭	9,318 頭	11(11) 頭	54 頭
服色の登録	124 件	103 件	2,078 件	9(4) 件	—

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

〔J R A所属〕 ※ i ii				〔その他〕 ※ iii iv v		
免許の種類	免許 の数	取消 の数	本事業 年度末数	短期	国際 関係	地方 関係
調教師の免許	192 名	1 名	191 名	—	10 名	45 名
騎手の免許	148 名	10 名	138 名	17 名	15 名	48 名

※ i 「免許の数」：3月1日付免許者数

ii 「取消の数」：免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数

iii 「短期」：臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）

iv 「国際関係」：国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）

v 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、育成研究を目的として市場購買馬（2023 年購買の2歳馬74頭及び2024年購買の1歳馬74頭）の育成を行いました。

また、日高育成牧場及び宮崎育成牧場において、生産育成研究を目的としてJ R A生産馬（当歳10頭、1歳9頭及び2歳8頭）の育成を行いました。

(5) 騎手の養成・訓練

競馬学校において騎手の養成を行い、7名が卒業しました。2024 事業年度末現在の在校者数は21名となっています。

(6) 日本中央競馬会法第19条第2項第4号に掲げる業務

上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を行いました。

そのうち、特別振興資金を使用して、競馬振興事業を実施しました。

合計金額 92億9,651万2,304円

(7) 畜産振興事業

特別振興資金を使用して、畜産振興事業を実施しました。

合計金額 47億1,516万7,555円

(8) 払戻金への上乗せ

特別振興資金を使用して、1号給付金及び2号給付金を払戻金に上乗せしました。

1号給付金 27億9,008万2,210円

2号給付金 41億6,627万8,000円

合計金額 69億5,636万 210円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競走馬生産振興業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 39億5,600万円

(10) 競馬活性化業務への交付

地方競馬全国協会が行う「競馬活性化業務」に対して、特別振興資金を使用して、交付金を交付しました。

合計金額 6億2,479万9,870円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

該当ありません。

2. 前事業年度までにおける業務の実施状況

(1) 競馬の実施等

① 競馬の開催状況

事業年度	2021 年		2022 年		2023 年	
	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数	開催回数	開催日数
札幌競馬場	2 回	14 日	2 回	14 日	2 回	14 日
函館競馬場	1 回	12 日	1 回	12 日	2 回	12 日
福島競馬場	2 回	12 日	3 回	20 日	3 回	20 日
新潟競馬場	5 回	36 日	4 回	26 日	4 回	26 日
中山競馬場	5 回	42 日	5 回	42 日	5 回	42 日
東京競馬場	5 回	44 日	5 回	45 日	5 回	45 日
中京競馬場	6 回	45 日	6 回	45 日	4 回	32 日
京都競馬場	0 回	0 日	0 回	0 日	3 回	29 日
阪神競馬場	6 回	53 日	6 回	54 日	5 回	46 日
小倉競馬場	4 回	30 日	4 回	30 日	3 回	22 日
合 計	36 回	288 日	36 回	288 日	36 回	288 日

② 売得金及び開催競馬場入場人員

事業年度	売 得 金	開催競馬場入場人員
2021 年	3兆1,079億6,007万3,800円	72万2,670人
2022 年	3兆2,736億8,192万8,500円	279万 937人
2023 年	3兆2,964億 963万3,200円	462万4,106人

③ 国庫納付金

事業年度	第 1 国庫納付金	第 2 国庫納付金
2021 年	3,107億9,600万7,380円	355億8,042万 971円
2022 年	3,273億6,819万2,850円	418億9,334万 638円
2023 年	3,296億4,096万3,320円	284億6,404万8,173円

④ 主な業績項目の数値

項 目		2021 年	2022 年	2023 年
競馬開催計画 達成率	開催回数	100%	100%	100%
	開催日数	100%	100%	100%
職員一人当り の効率	対売上収入	1,747,026 千円	1,840,180 千円	1,832,356 千円
	対入場人員	406 人	1,568 人	2,570 人
対売上収益率		2.28%	2.56%	1.73%

(2) 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録

① 馬主の登録

〔J R A 所属〕				〔その他〕※ i ii	
事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
2021 年	174 名	101 名	2,672 名	2(2) 名	22 名
2022 年	174 名	106 名	2,740 名	4(8) 名	37 名
2023 年	177 名	122 名	2,795 名	1(4) 名	24 名

② 馬の登録

〔J R A 所属〕				〔その他〕※ i ii	
事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
2021 年	5,282 頭	5,303 頭	8,890 頭	3(3) 頭	54 頭
2022 年	5,330 頭	5,168 頭	9,052 頭	5(5) 頭	59 頭
2023 年	5,534 頭	5,401 頭	9,185 頭	2(2) 頭	63 頭

③ 服色の登録

〔J R A 所属〕				〔その他〕※ i	
事業年度	登録の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	
2021 年	122 件	100 件	2,026 件	2(2) 件	
2022 年	128 件	110 件	2,044 件	4(8) 件	
2023 年	113 件	100 件	2,057 件	1(4) 件	

※ i 「国際関係」：国際交流競走に係わる登録の数（カッコ内は取消の数）

ii 「地方関係」：地方競馬との指定交流競走に係わる登録の数（取消の数は登録と同数）

(3) 調教師及び騎手の免許

① 調教師の免許

〔J R A所属〕※ i ii			〔その他〕※ iv v		
事業年度	免許の数	取消の数	当該事業年度末数	国際関係	地方関係
2021 年	193 名	1 名	192 名	2 名	47 名
2022 年	190 名	0 名	190 名	5 名	48 名
2023 年	192 名	2 名	190 名	2 名	61 名

② 騎手の免許

〔J R A所属〕※ i ii				〔その他〕※ iii iv v		
事業年度	免許 の数	取消 の数	当該事業 年度末数	短期	国際 関係	地方 関係
2021 年	141 名	2 名	139 名	1 名	2 名	10 名
2022 年	149 名	3 名	146 名	10 名	9 名	39 名
2023 年	151 名	7 名	144 名	14 名	7 名	61 名

- ※ i 「免許の数」 : 3月1日付免許者数
 ii 「取消の数」 : 免許期間を満了せずに事業年度途中で取り消した者の数
 iii 「短期」 : 臨時試験による短期騎手免許者数（延人数）
 iv 「国際関係」 : 国際交流競走・国際騎手招待競走に係わる免許者数（延人数）
 v 「地方関係」 : 地方競馬との指定交流競走に係わる免許者数（延人数）

(4) 競走馬の育成

事業年度	育成頭数	(内訳)	当歳馬	1 歳馬	2 歳馬
2021 年	176(27)頭		9(9)頭	83(9)頭	84(9)頭
2022 年	174(26)頭		8(8)頭	83(9)頭	83(9)頭
2023 年	174(26)頭		9(9)頭	82(8)頭	83(9)頭

※ ()内は育成した J R A 生産馬の頭数 (内数)

(5) 騎手の養成・訓練

事業年度	競馬学校卒業者数	当該事業年度末在校生数
2021 年	8 名	25 名
2022 年	9 名	21 名
2023 年	6 名	20 名

(6) 日本中央競馬会法第 19 条第 2 項第 4 号に掲げる業務

- ① 2021 年、2022 年及び 2023 年の各事業年度において、上記(1)～(5)の業務のほか、競馬の健全な発展を図るため必要な業務を実施しました。

② 競馬振興事業

事業年度	金 額
2021 年	109億8,416万6,688円
2022 年	113億8,196万9,475円
2023 年	133億1,354万1,497円

(7) 畜産振興事業

事業年度	金 額
2021 年	39億6,408万4,897円
2022 年	42億4,538万 993円
2023 年	47億6,320万7,359円

(8) 払戻金への上乗せ

事業年度	金 額	1 号給付金	2 号給付金
2021 年	66億8,632万9,170円	33億6,238万9,360円	33億2,393万9,810円
2022 年	66億9,429万9,720円	32億1,622万5,820円	34億7,807万3,900円
2023 年	75億8,020万1,580円	33億4,423万5,010円	42億3,596万6,570円

(9) 競走馬生産振興業務への交付

事業年度	金 額
2021 年	13 億 8,600 万円
2022 年	23 億 1,600 万円
2023 年	97 億 円

(10) 競馬活性化業務への交付

事業年度	金 額
2021 年	12億9,126万4,274円
2022 年	16億3,650万9,907円
2023 年	14億3,333万5,000円

(11) 借入金、財政投融资資金及び国庫補助金等による資金調達の状況

2021 年、2022 年及び 2023 年の各事業年度において、該当ありません。

Ⅱ 日本中央競馬会の概要

1. 業務の内容

日本中央競馬会は、競馬の健全な発展を図って馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的とし、その目的を達成するため次の業務を行うことが法定されています。

(1) 業務内容

- ① 中央競馬の実施
- ② 馬主、馬（競走馬）及び服色の登録
- ③ 調教師及び騎手の免許
- ④ 競走馬の育成
- ⑤ 騎手の養成・訓練
- ⑥ 競馬法第 21 条の規定により委託を受ける競馬の実施に関する事務
- ⑦ その他競馬の健全な発展を図るため必要な業務
- ⑧ 畜産振興事業等について助成することを業務とする法人に対し、当該助成に必要な資金の全部又は一部を交付する業務
- ⑨ 競馬法附則第 5 条第 1 項第 1 号及び第 2 号に規定する当該勝馬投票の的中者に対し、給付金を交付する業務
- ⑩ 地方競馬全国協会が行う競走馬生産振興業務に対し、交付金を交付する業務
- ⑪ 地方競馬全国協会が行う競馬活性化業務に対し、交付金を交付する業務（2027 事業年度までの間）

(2) 根拠規定

日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）第 19 条

競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）第 23 条の 44 第 3 項並びに附則第 5 条及び第 8 条

2. 各事務所の所在地

名 称	郵便番号	所 在 地	電話番号
本部	105-0003	東京都港区西新橋 1 丁目 1 番 1 号	03-3591-5251
馬事公苑	158-0098	東京都世田谷区上用賀 2 丁目 1 番 1 号	03-3429-5101
競馬学校	270-1431	千葉県白井市根 835 番地 1	047-491-0333
競走馬総合研究所	329-0412	栃木県下野市柴 1400 番 4 号	0285-44-0090
競走馬 リハビリテーションセンター	972-8325	福島県いわき市常磐白鳥町上ノ原 71 番	0246-43-3185
日高育成牧場	057-0171	北海道浦河郡浦河町字西舎 535 番地の 13	0146-28-1211
宮崎育成牧場	880-0036	宮崎県宮崎市花ヶ島町大原 2347 番地	0985-25-3448
栗東 トレーニング・センター	520-3085	滋賀県栗東市御園 1028 番地	077-558-0101
美浦 トレーニング・センター	300-0493	茨城県稲敷郡美浦村大字美駒 2500 番地 の 2	029-885-2111
札幌競馬場	060-0016	北海道札幌市中央区北 16 条西 16 丁目 1 番 1 号	011-726-0461
函館競馬場	042-8585	北海道函館市駒場町 12 番 2 号	0138-53-1021
福島競馬場	960-8114	福島県福島市松浪町 9 番 23 号	024-534-2121
新潟競馬場	950-3301	新潟県新潟市北区笹山 3490 番地	025-259-3141
中山競馬場	273-0037	千葉県船橋市古作 1 丁目 1 番 1 号	047-334-2222
東京競馬場	183-0024	東京都府中市日吉町 1 番地の 1	042-363-3141
中京競馬場	470-1132	愛知県豊明市間米町敷田 1225 番地	052-623-2001
京都競馬場	612-8265	京都府京都市伏見区葭島渡場島町 32 番地	075-631-3131
阪神競馬場	665-0053	兵庫県宝塚市駒の町 1 番 1 号	0798-51-7151
小倉競馬場	802-0841	福岡県北九州市小倉南区北方 4 丁目 5 番 1 号	093-962-3236

3. 資本金の総額及び政府の出資額並びにこれらの増減

資本金の総額	政府の出資額	前期末比増減
4,924,129,000 円	全額政府出資	増減なし

4. 役員の定数並びに各役員の氏名、役職、任期及び経歴等 (2024 事業年度末現在)

(1) 役員の定数

理事長 1 人、副理事長 1 人、理事 10 人以内及び監事 3 人以内

(2) 各役員の氏名、役職、任期、経歴

役 職	氏 名	任 期	経 歴
理 事 長	吉田 正義	2023 年 9 月 12 日～2026 年 9 月 11 日	日本中央競馬会 副理事長
副理事長	山口 英彰	2023 年 9 月 12 日～2026 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 常務理事
常務理事	臼田 雅弘	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会理事
理 事	植木 聡	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 総合企画部長
理 事	清水 靖博	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 プロモーション部長
理 事	橋本 次郎	2023 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日	日本中央競馬会総括監
理 事	佐野 健吉	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 競走部長
理 事	菊田 淳	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 審判部長
理 事	飯田 久隆	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 経理部審議役
理 事	小林 哲也	2023 年 3 月 1 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 美浦トレーニング・センター場長
理 事	吉成 公伸	2023 年 9 月 12 日～2025 年 2 月 28 日	日本中央競馬会 競走部長
監 事	高嶋 民治	2023 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 30 日	日本中央競馬会 総合企画部長
監 事 (非常勤)	田中佐知子	2024 年 9 月 16 日～2026 年 9 月 15 日	弁護士
監 事 (非常勤)	小谷実可子	2024 年 9 月 16 日～2026 年 9 月 15 日	NPO 法人 日本オリンピックズ協会理事

(3) 役員の異動

なし

5. 職員の定数及びその増減（2024 事業年度末現在）

職員の定数	前期末比増減
1,805 人	6 人増

6. 日本中央競馬会の沿革

1954 年	○ 日本中央競馬会の設立（9 月 16 日） 1954 年に当時の「日本競馬会」の業務を継承したいわゆる「国営競馬」を引き継いで、競馬法（昭和 23 年 7 月 13 日法律第 158 号）により競馬を行う特殊法人として、日本中央競馬会法（昭和 29 年 7 月 1 日法律第 205 号）により設立
1991 年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 馬主の登録制度並びに調教師及び騎手の免許制度の改善 ② 馬主登録等がより公正に行われるための審査会の設置 ③ 日本中央競馬会の剰余金を有効に活用するための特別振興資金及び特別給付資金の新設 ④ 競馬振興事業及び畜産振興事業の新設 ⑤ 単勝式及び複勝式の勝馬投票の的中者に対し、特別給付金を交付する特別給付業務の新設
2005 年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 ① 中央競馬の実施に関する事務を政令で定めるところにより都道府県等に委託することができることを新たに規定 ② 勝馬投票券の購入等の制限の対象から成年である学生生徒が除外 ③ 単勝式及び複勝式の払戻率を改正（特別給付業務は 2004 年末までの分をもって終了） ○ 「行政改革の重要方針」の閣議決定（12 月 24 日） ① 現行の組織形態（特殊法人）を継続 ② 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和 ③ 競争入札への移行の促進、子会社等の統合、外部監査の導入等を図ること
2007 年	○ 競馬法及び日本中央競馬会法の一部を改正する法律の施行 ① 経営委員会の設置 ② 農林水産大臣の関与及び規制の緩和（規約についての関与の緩和、役員の任免等に関して大臣認可を不要とすること等） ③ 1 号給付金及び 2 号給付金を交付する業務の新設
2012 年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 払戻金の算出方法の見直し
2015 年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 海外競馬の競走についての勝馬投票の実施
2022 年	○ 競馬法の一部を改正する法律の施行 競馬に対する国民の信頼を確保するための措置の充実

7. 根拠法 日本中央競馬会法

8. 主務大臣 農林水産大臣

9. 経営委員会の概要（2024 事業年度末現在）

経営委員会は、日本中央競馬会法第 8 条の 2 の規定により設置され、農林水産大臣が任命する委員 6 人及び理事長の 7 人により構成されています。

（１）各委員の氏名、任期及び職名等

氏 名	任 期	職 名 等
片山 雅文	2022 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日	(株)産経新聞社 コンプライアンスアドバイザー
小堀 秀毅 (委員長代理)	2023 年 7 月 1 日～2025 年 8 月 31 日	旭化成(株) 取締役会長
酒井 順子	2022 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日	エッセイスト
田島 優子	2022 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日	弁護士
眞鍋 昇	2022 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日	大阪国際大学 学長補佐
山西健一郎 (委員長)	2022 年 9 月 1 日～2025 年 8 月 31 日	三菱電機(株) 元社長、会長

（２）経営委員会の開催概要

- ① 第 1 回経営委員会（1 月 17 日）
 - ・ 2024 年度組織改正（案）の議決 ほか
- ② 第 2 回経営委員会（2 月 15 日）
 - ・ 役員担当（案）の報告 ほか
- ③ 第 3 回経営委員会（3 月 14 日）
 - ・ 令和 5 事業年度決算（案）の議決 ほか
- ④ 第 4 回経営委員会（5 月 17 日）
 - ・ 日本中央競馬会職員給与規程の一部改正（案）の議決
 - ・ 令和 5 事業年度経営目標の達成状況の評価（案）の議決 ほか
- ⑤ 第 5 回経営委員会（7 月 18 日）
 - ・ 設備投資中期計画（2025 年～2027 年）の報告 ほか
- ⑥ 第 6 回経営委員会（8 月 6 日）

- ・ 中央競馬概況の報告 ほか

⑦ 第7回経営委員会（9月20日）

- ・ 2025事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）の議決 ほか

⑧ 第8回経営委員会（10月18日）

- ・ 競馬法第8条第1項の規定により日本中央競馬会が定める率（案）の議決 ほか

⑨ 第9回経営委員会（11月15日）

- ・ 2025事業年度経営目標（案）の決定
- ・ 2025事業年度事業計画（案）の議決
- ・ 2025事業年度収支予算（案）の議決
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約の一部改正（案）の議決 ほか

⑩ 第10回経営委員会（12月12日）

- ・ 日本中央競馬会役員給与規程の一部改正（案）の議決
- ・ 競馬法第8条第1項の規定により日本中央競馬会が定める率（案）の議決 ほか

（3）委員の異動

なし

10. 運営審議会の概要（2024 事業年度末現在）

日本中央競馬会法第 16 条の規定により、日本中央競馬会の業務の執行に関する重要事項を調査審議するため、理事長が農林水産大臣の認可を受けて任命する者により構成される運営審議会が設置されています。

（1）各委員の氏名、任期及び職名等

氏 名	任 期	職 名 等
大西 洋	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	日本空港ビルデング(株) 取締役副社長
佐藤 藍子	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	女優
鈴木 淑子	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	競馬ジャーナリスト
武 豊	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	日本騎手クラブ 会長
中竹 和也	2024 年 3 月 1 日～2025 年 9 月 15 日	(一社)日本調教師会 会長
西川 賢	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	日本馬主協会連合会 会長
蓮見 恭子	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	小説家
古川 雅且	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	日高軽種馬農業協同組合 代表理事組合長
本川 一善	2024 年 10 月 1 日～2025 年 9 月 15 日	農林水産技術会議 会長
宮下真理子	2023 年 9 月 16 日～2025 年 9 月 15 日	日本画家

（2）運営審議会の開催概要

① 第 1 回運営審議会（3 月 7 日）

- ・ 令和 5 事業年度決算（案）について

② 第 2 回運営審議会（9 月 13 日） ※書面表決

- ・ 2025 事業年度事業計画（案）（「開催計画」「重賞競走の改善」に係る部分）について

③ 第 3 回運営審議会（11 月 7 日）

- ・ 2025 事業年度事業計画（案）について
- ・ 2025 事業年度収支予算（案）について
- ・ 日本中央競馬会競馬施行規約・規程の一部改正（案）について

（3）委員の異動

2 月 29 日付で手塚貴久委員が退任し、3 月 1 日付で中竹和也氏が新たに委員に任命されました。また、9 月 30 日付で土川健之委員が退任し、10 月 1 日付で本川一善氏が新たに委員に任命されました。

1 1. 公正審査会議の概要（2024 事業年度末現在）

日本中央競馬会法第 20 条の規定に基づき、馬主の登録・抹消、調教師及び騎手の免許・取消し、行政不服審査法による審査請求に対する裁決などについて意見を聴くため、理事長が学識経験者から公正審査委員を任命し、委員による公正審査会議を開催しました。

（1）各委員の氏名、任期及び経歴

氏 名	任 期	経 歴
石木 俊治	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	元 内閣法制局第四部長
石原 葵	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	元 日本中央競馬会副理事長
井上 美昭	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	元 関東管区警察局長
酒井 邦彦	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	弁護士
酒井 啓子	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	千葉大学グローバル 関係融合研究センター長
福沢 恵子	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	(公財)日本女性学習財団評議員
堀越 礼子	2023 年 9 月 7 日～2025 年 9 月 6 日	(株)朝日新聞社取締役

（2）公正審査会議の開催概要

- ① 第 1 回公正審査会議（1 月 12 日）
- ② 第 2 回公正審査会議（2 月 2 日）
 - ・ 2024 年度調教師及び騎手免許について
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
- ③ 書面審査（2 月 15 日～2 月 28 日）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者変更 1 件）
- ④ 第 3 回公正審査会議（3 月 8 日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の限定的代表者解除 1 件）
- ⑤ 第 4 回公正審査会議（4 月 11 日）
 - ・ 2024 年第 1 回馬主登録審査に係る馬主登録について（44 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
- ⑥ 第 5 回公正審査会議（5 月 9 日）

- ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
- ・ 馬主登録について（個人馬主の馬主登録取消の猶予 1 件）
- ⑦ 第 6 回公正審査会議（6 月 6 日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 2 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 2 件）
- ⑧ 第 7 回公正審査会議（7 月 4 日）
 - ・ 2024 年第 2 回馬主登録審査に係る馬主の登録について（59 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
- ⑨ 第 8 回公正審査会議（9 月 6 日）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
 - ・ 馬主登録について（組合馬主の組合員変更 1 件）
- ⑩ 第 9 回公正審査会議（10 月 4 日）
 - ・ 馬主登録について（個人馬主による法人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
- ⑪ 第 10 回公正審査会議（11 月 8 日）
 - ・ 2024 年第 3 回馬主登録審査に係る馬主の登録について（55 件）
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主による個人馬主登録 1 件）
 - ・ 馬主登録について（法人馬主の代表者変更 1 件）
- ⑫ 第 11 回公正審査会議（12 月 4 日）
 - ・ 2025 年度調教師免許（新規）について
 - ・ 馬主登録について（相続馬限定 1 件）
 - ・ 馬主登録審査基準等の改正について（経済要件の見直し）

（３）委員の異動

なし

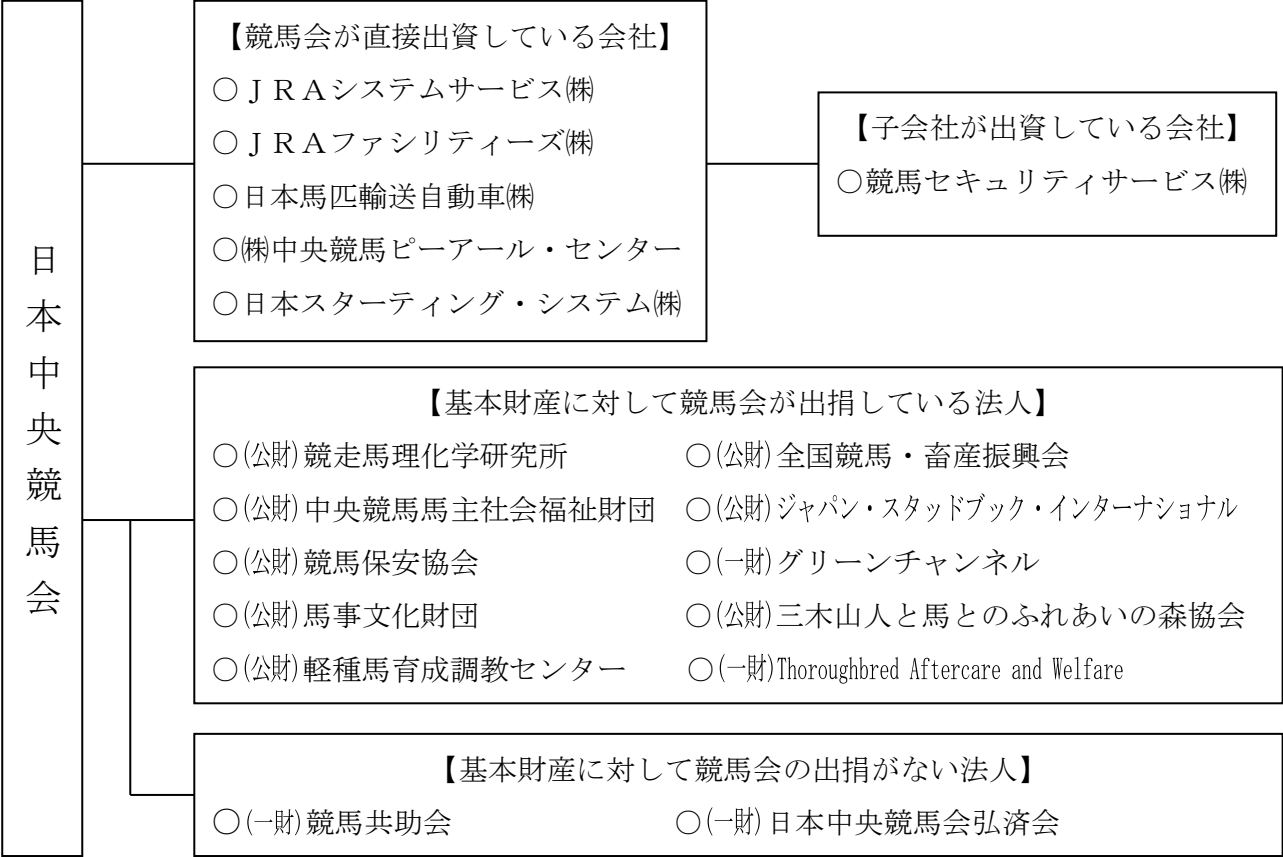
Ⅲ 子会社等に関する事項（2024 事業年度末現在）

1. 子会社等の状況

日本中央競馬会法施行規則（昭和 29 年農林省令第 56 号）第 10 条第 3 号に定める子会社等の状況は以下のとおりです。

- (1) 子会社：J R Aシステムサービス(株)、J R Aファシリティーズ(株)、日本馬匹輸送自動車(株)、(株)中央競馬ピーアール・センター、日本スターティング・システム(株)、競馬セキュリティサービス(株)
- (2) 関連会社：なし
- (3) 関連一般社団法人等：(公財)競走馬理化学研究所、(公財)中央競馬馬主社会福祉財団、(公財)競馬保安協会、(公財)馬事文化財団、(公財)軽種馬育成調教センター、(公財)全国競馬・畜産振興会、(公財)ジャパン・スタッドブック・インターナショナル、(一財)グリーンチャンネル、(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会、(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare 、(一財)競馬共助会、(一財)日本中央競馬会弘済会

【日本中央競馬会と子会社等との関係を示した図】



2. 子会社の名称、住所、資本金、事業内容、役員数、代表者の氏名、従業員数、日本中央競馬会の所有する議決権の議決権の総数に対する割合及び日本中央競馬会との関係

子会社の名称・住所 代表者の氏名 資本金 競馬会の議決権所有割合	主な事業内容	売上高 当期純利益 利益剰余金 〔2023年〕 決算額 (百万円)	役員数 (うち常勤) 従業員数 (人)	競馬会との関係 ア 売上高中の競馬会との取引額 (2023年実績) イ 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
JRAシステムサービス㈱ 【2007年10月設立】 東京都江東区永代 1-14-5 代表取締役社長 木村 一人 500,000千円 54.5% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・トータリゼータシステム及び各種情報処理システム並びにそれらのシステムに関連する機器の運用及び保守整備 ・競馬に関する情報の提供 ・各種機器・車両及び競馬用諸設備の売買及び賃貸並びにそれらに付帯する物品の売買及び賃貸	22,832 605 7,674	15 (11) 570	ア 19,774百万円 イ ・トータリゼータシステム等の運用保守管理業務 ・トータリゼータシステム等のソフトウェア開発業務 ・競馬に関する情報提供システムの運用業務 ウ なし
JRAファシリティーズ㈱ 【2007年10月設立】 東京都中央区八丁堀 3-19-9 代表取締役社長 木所 康夫 300,000千円 94.9% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・建物、馬場、造園及び各種設備の保守管理並びに関連資材の販売 ・施設等の清掃、環境衛生、防疫、廃棄物の管理及び警備 ・出走馬一覧表等各種刊行物の作製及び版下作成 ・飼糧、敷料及び添加物等の輸入並びに販売 ・損害保険代理業及び生命保険の募集等	24,959 415 12,037	15 (11) 499	ア 19,654百万円 イ ・競馬場等の建物、設備、馬場等の保守管理業務 ・競馬場等の清掃管理業務及び清掃業務 ・レーシングプログラムの作製 ・建物、設備、馬場等の設計管理業務 ウ なし
日本馬匹輸送自動車㈱ 【1947年8月設立】 東京都港区新橋 6-20-11 代表取締役社長 谷崎 潤 36,000千円 100%	・競走馬の輸送	2,200 49 1,686	5 (3) 95	ア 2,173百万円 イ ・競走馬輸送業務 ウ なし
㈱中央競馬ピーアール・センター 【1978年10月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 代表取締役社長 新屋 勇人 20,000千円 64.3% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・競馬及び馬文化等に関する図書及び印刷物の企画、編集、制作、出版及び販売 ・競馬及び馬文化等に関する映像業務、音声業務並びにその機器の運用、開発、販売、賃貸及び保守整備 ・競馬及び馬文化等に関する各種情報の収集及び提供	8,395 476 2,807	7 (5) 113	ア 4,206百万円 イ ・映像伝送ネットワークシステム運用保守管理業務 ・競馬実況中継放送代理業務 ウ なし
日本スターティング・システム㈱ 【1965年9月設立】 東京都港区新橋 6-14-3 代表取締役社長 横田 貞夫 10,000千円 100%	・発馬機及びその周辺機器等の運用並びに保守整備 ・発馬機及びその周辺機器の賃貸並びに販売 ・競走馬の発走に関する補助	1,673 163 1,648	7 (4) 72	ア 1,654百万円 イ ・発馬機作業及び機材輸送業務 ウ なし
競馬セキュリティサービス㈱ 【1992年11月設立】 東京都港区西新橋 3-2-1 代表取締役社長 小日向 照夫 100,000千円 0% (子会社を含めた議決権の所有割合100%)	・警備業法に基づく警備業務 ・労働者派遣業務 ・競馬関連施設における案内、管理とその施行に関する業務	4,202 113 2,531	4 (2) 115	ア 3,620百万円 イ ・競馬場等の常駐警備業務 ・競馬開催に係る警備業務、案内業務及び競馬開催補助業務 ウ なし

3. 関連一般社団法人等の名称、住所、基本財産、事業内容、役員数、代表者の氏名、職員数及び日本中央競馬会との関係

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 (2023 年) 決算額	役員数 (うち常勤) 従業員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (2023 年実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)競走馬理化学研究所 【1965 年 8 月設立】 栃木県宇都宮市砥上町 321-4 理事長 安齊 了 1, 030, 114 千円 (2023 年末現在)	- 競走馬に施用される薬品及び薬剤の検査及び研究 - 騎手に施用され、又は騎手が使用する薬品及び薬剤の検査及び研究 - 馬の親子判定及び個体識別に係る検査及び研究 - 農畜産物等に使用される薬品及び薬剤等の検査及び研究	(百万円) 2, 041	(人) 6 (3) 67	ア 1, 503 百万円 イ 「日本中央競馬会競馬施行規約」に定める競走馬に係る薬物検出機関 ・競走馬薬物検査業務 ・薬物検査法の開発に関する委託研究業務 ウ なし
(公財)中央競馬馬主社会福祉財団 【1969 年 10 月設立】 東京都港区虎ノ門 1-2-10 理事長 畑山 光伸 5, 516, 689 千円 (2023 年末現在)	- 社会福祉を目的とする事業に対する助成 - 社会福祉事業関係者の研修事業に対する助成 - 中央競馬関係者の福利厚生の上向のための事業	689	10 (1) 6	ア なし イ 競馬会が馬主に交付した競馬賞金の一部を使用してその事業を実施 ウ 理事 (非常勤) 吉田 正義 (競馬会理事長) 理事 (非常勤) 白田 雅弘 (競馬会常務理事)
(公財)競馬保安協会 【1971 年 5 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 理事長 倉田 潤 10, 000 千円	競馬の公正確保のために必要な調査並びに情報及び資料の収集	1, 701	5 (5) 145	ア 1, 496 百万円 イ 競馬の公正確保に必要な調査等を実施 ウ なし
(公財)馬事文化財団 【1976 年 4 月設立】 神奈川県横浜市中区根岸台 1-3 理事長 高橋 敦樹 1, 890, 304 千円 (2023 年末現在)	- 馬に関する文献、標本、写真、フィルム等の博物資料 (以下「馬事博物資料」) の収集、保管及び展示 - 馬事博物資料に関する印刷物の編集及び刊行 - 根岸競馬記念公苑の馬の博物館その他施設の管理運営	750	7 (2) 24	ア 338 百万円 イ 根岸競馬記念公苑「馬の博物館」、東京競馬場「JRA 競馬博物館」及び「Gate J.」の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)軽種馬育成調教センター 【1991 年 3 月設立】 北海道浦河郡浦河町字西舎 528 理事長 草野 広実 1, 000, 000 千円	- 軽種馬の育成調教技術の改善・普及 - 育成調教技術者の養成 - 共同利用に供する育成調教施設の運営・管理	883	8 (2) 46	ア 532 百万円 イ 日高育成牧場の日高育成総合施設軽種馬育成調教場の管理運営等を実施 ウ なし
(公財)全国競馬・畜産振興会 【1991 年 10 月設立】 東京都港区新橋 4-5-4 会長 中村 嘉宏 1, 000, 000 千円	- 競馬の健全な発展を図るための事業に対する助成 - 畜産の振興に資するための事業等に対する助成	198	7 (2) 11	ア 141 百万円 イ 競馬の健全な発展を図るための事業並びに畜産振興事業等に対する助成等を実施 ウ なし

関連一般社団法人等の名称・住所 代表者の氏名 基本財産	主な事業内容	年間収入 〔2023年〕 決算額	役員数 (うち常勤) 職員数	競馬会との関係 ア 年間収入中の競馬会支出額 (2023年実績) イ 競馬会の業務との関係及び 競馬会との重要な取引の概要 ウ 競馬会役員の兼任状況
(公財)ジャパン・スタッドブック・ インターナショナル 【2010年12月設立】 東京都港区新橋4-5-4 理事長 福井 紳弥 1,040,830千円	・海外における競馬に関する情報の収集及び提供並びに我が国の競馬に関する情報の海外への提供 ・競馬の施行、競走馬の育成に関する海外の競馬関係者との技術の交流 ・軽種馬の登録及び登録証明書の発行	(百万円) 892	(人) 7 (3) 38	ア 486百万円 イ 競馬会が必要とする海外における競馬に関する情報の収集・提供及び競馬会の行う馬の登録の基礎となる軽種馬の血統登録等を実施 ウ 監事(非常勤) 佐野 健吉(競馬会理事)
(一財)グリーンチャンネル 【1993年9月設立】 東京都江東区永代1-14-5 理事長 勝見 浩二 1,000,000千円	・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の放送、供給及び配信業務 ・競馬、馬事文化及び農林水産業等に関する番組の制作、編集及びその支援	5,066	8 (4) 25	ア 725百万円 イ 中央競馬等の映像情報に関する番組制作、放送等を実施 ウ なし
(公財)三木山人と馬とのふれあいの森協会 【1994年6月設立】 兵庫県三木市別所町高木 三木ホースランドパーク 理事長 伊東 茂治 200,000千円	・野外体験活動等の実施、指導並びに支援 ・馬事に関する普及啓発 ・乗馬施設等馬事に関する施設の整備及び維持管理	614	8 (1) 19	ア 452百万円 イ 兵庫県三木市における乗馬施設等馬事に関する施設の管理運営等を実施 ウ なし
(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare 【2024年2月設立】 東京都港区西新橋1-19-4 理事長 阿部 智己 40,000千円	・引退競走馬の利活用促進や養老・余生の機会拡充等に関する事業等の実施	—	7 (1) 11	ア なし(2024年設立のため) イ なし(2024年設立のため) ウ なし
(一財)競馬共助会 【1948年9月設立】 東京都府中市日吉町1-1 会 長 吉崎 一郎 1,500,000千円	・厩舎関係者等に対する福利厚生に関する事業 ・診療所及び厚生施設の運営 ・競馬場等における売店等の運営及び安全衛生に関する業務	2,896	7 (3) 79	ア 886百万円 イ 中央競馬厩舎関係者の福利厚生団体 ウ 理事(非常勤) 佐野 健吉(競馬会理事)
(一財)日本中央競馬会弘済会 【1964年12月設立】 東京都港区西新橋1-1-1 会 長 峯島 善弘 1,600,000千円	・中央競馬及び畜産の健全な発展並びに馬事文化の普及に寄与する事業 ・職員の福利厚生に関する事業	173	8 (2) 5	ア 1百万円 イ 競馬会職員の福利厚生団体 ウ なし

IV 日本中央競馬会が対処すべき課題

1. 閣議決定

(1) 「特殊法人の整理合理化について」(1995 年 2 月 24 日閣議決定)

地方競馬との交流競走の拡大を図るとともに、通信衛星による競馬映像情報の提供、地方競馬場における中央競馬の勝馬投票券の発売等を進めることにより、ファンサービスの改善と地方競馬への支援に努める。また、勝馬投票券の発売・払戻の自動化等により勝馬投票業務の効率化に努める。

(2) 「特殊法人等整理合理化計画」(2001 年 12 月 19 日閣議決定)

管理経費・競走事業費の削減など更なる事業の効率化を図る。その一環として、公正確保と両立させつつ、一般競争入札等の範囲を大幅に拡大するとともに、関係会社等に対する委託費等を削減する。

(3) 「行政改革の重要方針」(2005 年 12 月 24 日閣議決定)

事業

【助成金交付事業】

- 当事業の透明性向上のためにこれまで講じている外部有識者委員会による助成事業の選定・評価、補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律の規定の準用等に加え、助成事業の評価結果を全面的に公表する仕組みを導入する。
- 国の畜産関係補助金との役割分担を明確化する。

【中央競馬関係事業】

- 競争性のある契約のうち競馬の公正・中立性の確保上支障のない契約については、そのすべての契約を、2010 年までのできる限り早い時期に競争入札に移行させる。
- 子会社・関係会社の組織・事業の再編・統廃合を実施する。
- 入札結果・経営内容等の情報開示を一層進める。

【その他】

- 外部監査を導入する。

組 織

- 組織運営について、一層の効率化を図るため、次の措置を講ずる。
 - ・ 競馬の公正・中立性の確保上支障のない範囲において主務大臣の関与・規制の緩和
 - ・ 内部組織として学識経験者等で構成される中立性を有する機関の設置
 - ・ 当該機関による定量的な経営目標の設定及び業績評価の実施
 - ・ 当該経営目標の公表及び当該業績評価の結果の公表
 - ・ 経営不調時における役員解任規定導入

2. 「特殊法人に関する行政評価・監視結果に基づく勧告（日本中央競馬会）」

（2002 年 1 月 18 日総務大臣から農林水産大臣へ勧告）

支出の見直しについて

（1）経費の節減等

- ア) 施設整備の抑制
- イ) 施設利用料の適正化
- ウ) 子会社等との契約の見直し
- エ) 窓口業務の自動化に伴う要員縮減の推進
- オ) 競走事業費の支出の抑制

（2）ウインズの新設の抑制と運営の効率化

（3）抽せん馬制度の見直し

3. 「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」の施行に伴う情報公開への適切な対応（2002 年 10 月 1 日法律施行）

4. 「ギャンブル等依存症対策基本法」の施行に伴う適切な対応（2020 年 10 月 5 日法律施行）

この事業報告書は、日本中央競馬会法施行規則第 10 条の規定に基づき、記載しています。なお、日本中央競馬会の事業年度は、1 月 1 日から 12 月 31 日までとなっています。

J R Aの事業活動について

(2024 事業年度)

－ J R Aは、毎週走り続けます。－

(2024 事業年度事業報告書別冊)

はじめに

2024 事業年度において J R A は、「お客様とともに」「夢と感動とともに」「信頼とともに」「社会とともに」「そして未来へ」の 5 項目で構成する「経営の基本方針」に沿って事業活動を行いました。

その結果、競馬の開催については、全国 10 か所の競馬場において、2024 事業年度の経営目標の基本目標の一つである、「事業運営の根幹となる開催日数 288 日（36 開催）の競馬の着実な実施」を達成することができました。

また、お客様総数は延べ 2 億 434 万人余（対前年比 102.2%）と前年を上回り、もう一つの基本目標である「魅力ある競馬開催によるお客様総数の拡大 - 対前年比 100%超 - 」についても達成することができました。さらに、売得金についても、3 兆 3,428 億円余（対前年比：101.4%）となり、13 年連続で前年を上回りました。

一方で、騎手の通信機器（スマートフォン）の不適切な使用など、競馬に対する社会やお客様からの信頼を損ないかねない行為が複数発生しました。こうした事案について、お客様に多大なるご迷惑及びご心配をおかけしたことをお詫びするとともに、より実効性のある対策を講じるなど、同様の事案の再発防止に努めてまいります。

J R A は、こうした 2024 事業年度の事業活動の結果を的確にフィードバックし、国際的なスポーツエンターテインメントとしての競馬の魅力を更に向上させるとともに、お客様の獲得と定着化を図るため、競馬番組の充実と質の高い競走の提供をはじめとした様々な施策を実施してまいります。また、S D G s [Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）] や気候変動、馬の福祉といった中央競馬を取り巻く諸課題に積極的に取り組むとともに、D X（デジタルトランスフォーメーション）を推進し、事業運営の更なる効率化・安定化を図ってまいります。

また、J R A さらには競馬産業全体が安定的かつ持続的に発展していくためには、競馬の施行が環境や経済等社会全体に与える影響と J R A を取り巻く環境を意識しつつ、競馬の社会的基盤を強化していくことが必要となります。こうしたことから、今後とも、お客様からも社会からも「信頼される存在」であり続けること、J R A 及び競馬産業の事業基盤を強化していくこと、中央競馬事業の運営等に必要な原資を安定的に確保していくことに取り組んでまいります。

<目次>

○ 2024 事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供 p. 3
2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み p. 4
3. 競馬の公正確保等の徹底 p. 6
4. 競馬への参加促進及び販売促進 p. 7
5. 馬事の振興及び馬の福祉の充実 p. 11
6. 持続的な発展に向けた取組み p. 12

○ 2024 事業年度事業計画に掲げた項目の実施概況

1. 魅力ある競走の提供

(1) 開催計画

1月6日（土）から12月28日（土）の間に、延べ288日（36回）の競馬を全国10か所の競馬場において開催しました。

また、より多くのお客様にご参加いただくため、1月8日（祝・月）、9月16日（祝・月）及び10月14日（祝・月）に競馬を開催しました。

なお、各競馬場の開催回数及び開催日数は以下のとおりです。

競馬場	札幌	函館	福島	新潟	中山
開催回数	2	1	3	4	5
開催日数	14	12	20	28	41

競馬場	東京	中京	京都	阪神	小倉
開催回数	5	4	7	2	3
開催日数	44	29	60	16	24

(2) 重賞競走の改善

① ユニコーンステークス（GⅢ）の実施時期等の変更

「3歳ダート三冠競走を中心とした2・3歳馬競走の体系整備」に伴い、ユニコーンステークス（GⅢ）を東京ダービー（大井競馬場）の前哨戦に位置付けるため、実施時期、実施場及び競走距離を変更しました。

② 開催日割の変更に伴う実施日・実施場等の変更

開催日割の変更に伴い、一部重賞競走の実施日・実施場等を変更しました。

(3) 国内外の一流馬及び騎手の参加促進

高松宮記念に1頭（香港）、安田記念に2頭（香港）、スプリンターズステークスに2頭（香港）、マイルチャンピオンシップに1頭（イギリス）、キャピタルステークスに1頭（フランス）、ジャパンカップに3頭（アイルランド、ドイツ、フランス）、阪神ジュベナイルフィリーズに1頭（アメリカ）と、延べ11頭の外国馬が出走しました。

また、8月24日（土）・25日（日）（第2回札幌競馬第5・6日）に、外国騎手6名（アラブ首長国連邦、オーストラリア、フランス、ブラジル、香港）と地方競馬所属騎手1名（兵庫）を招待して、「ワールドオールスタージョッキーズ」を開催しました。

(4) 国際交流に関する取組み

延べ 99 頭の J R A 所属馬がカタール、サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オーストラリア、香港、アメリカ、イギリス、韓国、アイルランド、フランス、バーレーンに遠征し、5 競走で優勝しました。

また、I F H A（国際競馬統括機関連盟）が発表した「2024 年度ロンジンベストレースホースランキング」において、レーティング 115 以上の 273 頭のうち、日本調教馬は 56 頭が掲載され、国別の掲載頭数が初めて第 1 位になりました。さらに、「2024 年世界のトップ 100 G I 競走」において、日本の 13 競走が 100 位以内にランクインしました。

2. 競走馬の資質・能力の向上等への取組み

(1) 競走馬の生産育成を通じた取組み

J R A が生産した馬（J R A ホームブレッド）27 頭（当歳 10 頭、1 歳 9 頭及び 2 歳 8 頭）及び 1 歳市場で購入した馬 148 頭（2023 年購買の 2 歳馬 74 頭及び 2024 年購買の 1 歳馬 74 頭）を、日高・宮崎の育成牧場において育成しました。

また、育成した競走馬（J R A 育成馬）を 4 月に中山競馬場で開催した J R A ブリーズアップセール（会場及びオンラインによるハイブリッド方式）及び 5 月に開催した J R A コンソレーションセール（インターネットオークション方式）に上場し、上場馬全 79 頭（J R A ブリーズアップセール 76 頭、J R A コンソレーションセール 3 頭）を売却しました。

(2) 生産育成基盤の強化

強い馬づくりを推進し、競馬の国際交流の進展に対応し得る生産育成基盤の強化を図るため、諸団体が実施する軽種馬生産関連事業への助成等の協力を行いました。

(3) 競走馬の保健衛生対策

競走馬総合研究所等において、スポーツ科学、スポーツ障害、生産育成及び伝染病対応に関する研究を行いました。（別表 11）

また、7 月に「第 52 回生産地における軽種馬の疾病に関するシンポジウム」、11 月に「第 66 回競走馬に関する調査研究発表会」を開催し、それらの研究成果の普及に努めました。

(4) 競走馬の事故防止対策

競走時及び調教時における競走馬の事故（骨折等）の発生状況を随時調査・分析するとともに、「競走馬事故防止対策委員会」による実施計画に基づき、厩舎関係者への啓発活動や調教施設及び馬場の保全管理等、事故の減少を目的とした各種対策を講じました。

また、事故防止に資する調査研究として、「斜種子骨靱帯炎の発生状況と予後に関する調査」及び「美浦坂路改修に伴う運動強度の変化」を実施しました。

(5) 競走馬の暑熱対策

第2回新潟競馬において、気温が特に高い時間帯での競馬を休止し、気温による影響が比較的小さい時間帯に競馬を実施しました。また、当該競馬において、下見所の周回時間の更なる短縮等の取組みを実施しました。

さらに、競走馬の熱中症予防に資する調査研究を実施し、それらの成果を厩舎関係者に普及しました。

(6) 防疫体制の整備

入厩検疫や定期検査、予防接種、衛生作業等の防疫業務を着実に実施するとともに、海外の伝染病の発生状況等の情報を収集・周知することで、適切な防疫体制の整備を行いました。また、適切な飼養管理法を周知することにより、ワクチン接種率や衛生環境の改善を図り、国内の防疫体制を強化しました。

(7) 競走関連施設の充実

美浦トレーニング・センターにおいて、厩舎改築工事（2025年7月竣工予定）を実施しました。また、栗東トレーニング・センターにおいて、厩舎改築工事（2024年11月竣工）及び逍遙馬道改造工事（2025年11月竣工予定）を実施しました。

(8) 馬主活動の促進

各種媒体での馬主活動のPRや馬主登録ガイドの配布、競馬観戦会の実施等により馬主の新規開拓を進めました。また、新規馬主を対象としたオリエンテーションや永年馬主表彰、GI競走出走馬主等への記念品贈呈等を実施するとともに、馬主向けの情報提供の充実等を図るなど、馬主活動の促進に向けた取組みを行いました。

(9) 厩舎運営の活性化

引き続き、厩舎におけるウォーキングマシン導入の支援を行うなど、厩舎従業員の労働環境の改善や業務の効率化等、厩舎運営の総合的な改善に取り組みました。

(10) 厩舎関係者の養成等

競馬学校の騎手課程において、2月に7名（40期）が卒業し、3月1日付で騎手免許を取得しました。また、厩務員課程において、48名が卒業しました。

また、新規騎手免許取得者や見習騎手に対して、技術及び知識の習得・向上を図るため、各種研修等を実施しました。さらに、JRA及び地方競馬所属の見習騎手による「ヤングジョッキーズシリーズ」を実施しました。

3. 競馬の公正確保等の徹底

(1) 登録・免許業務及び制裁等の厳正な実施

馬主・競走馬・服色の登録及び調教師・騎手に対する免許業務について、法令に従い、公正審査委員の意見を聴いたうえで、厳正に実施しました。

また、騎手への制裁として、騎乗停止32件、過怠金435件、戒告537件の制裁を行いました。

(2) 競馬に対する信頼の確保に向けた取組み

① 薬物の不正使用事案等の未然防止

薬物の使用について、厩舎関係者への指導・研修を実施するとともに、禁止薬物等の飼料への混入防止のため、販売業者への講習会や薬物検査の受検状況の把握、配合飼料製造工場の査察を行いました。

また、関係者への事前周知を行ったうえで、2024年4月に禁止・規制薬物の指定追加を行いました。

② 反社会的勢力排除への取組み

関係機関と連携し、お客様の安全確保及び競馬場・ウインズ等内外の秩序維持に努めました。

③ 自主警備体制の整備

厩舎エリアへの防犯カメラの設置を進めるとともに、通門管理や巡回等を徹底することにより、お客様エリア等の施設内における安全確保や違法行為の防止に努めました。

④ 厩舎関係者のコンプライアンスの徹底

引き続き、J R A への情報提供の専用窓口（ホットライン）を設置したほか、厩舎関係者に対して、コンプライアンス研修を実施しました。

また、9 月に、騎手の不祥事に係る再発防止策として、個別面談方式による研修を実施しました。さらに、騎手の通信機器（スマートフォン）の不適切な使用が相次いだことを受け、12 月に、日本騎手クラブ及び（一社）日本調教師会に対して、再発防止に関する注意喚起文を発出するとともに、調整ルーム入室時の手荷物検査や通信機器（スマートフォン）の使用履歴の確認検査、調整ルーム居室内の検査を開始しました。

(3) 裁決事項の協調等

裁決事項に関する国際協調策の一環として、鞭の使用に係る違反を繰り返す騎手に対して、騎乗停止を科すこととしました。

4. 競馬への参加促進及び販売促進

(1) プロモーションの展開

競馬ファンを中心とした幅広い層をターゲットに、「HERO I S COMING.」をキャッチフレーズとした年間プロモーションを引き続き展開しました。

また、J R A の公式競馬エンターテインメントサイト「J R A FUN」において、様々なコンテンツを展開するとともに、「J R A 公式 Facebook」や「J R A 公式 Instagram」等の SNS を活用し、中央競馬の話題の拡散を行いました。

さらに、中央競馬の歴史と社会性、人と馬との関わり、お客様への感謝を表現の軸とした新たなブランド広告「未来へ、走り続ける。」や競馬産業に携わる人等、人と馬との関わりを描いたアニメ CM「今日、わたしの物語が走ります。」を放映しました。

(2) 広報活動の展開

祝日や平日の競馬開催日も含めてテレビ・ラジオによる競馬中継の放送枠を安定的に確保しました。また、J R A の認知度向上や競馬に関する話題作りを図るため、年間を通じてミニ番組の提供を行ったほか、春秋の G I シーズンの盛り上げを図るため、バラエティ番組・スポーツ番組及び情報番組におけるパブリシティやミニ番組の放送等を行いました。

さらに、J R Aで勝馬投票券を発売する海外競馬について、出走馬データや遠征馬の近況等の情報をお客様へ迅速に提供するとともに、グリーンチャンネル（ノースクランブル放送）及びラジオN I K K E Iにおいて、全ての発売対象レースを放送したほか、ドバイワールドカップと凱旋門賞については、地上波での中継も実施しました。また、お客様の注目度の高いドバイ諸競走、凱旋門賞、香港国際競走については、新聞及びW E Bでのプロモーションを展開しました。

(3) 競馬場・ウインズ等の活性化

① お客様層に応じたアプローチ

競馬場において、延べ 16, 164 人にビギナーズセミナーを、延べ 24, 684 人にビギナーズカウンターをご利用いただきました。

また、103, 189 人の女性のお客様にU M A J Oスポットをご利用いただきました。

さらに、65 歳以上のお客様に無料でご利用いただける座席について、G I 競走当日を中心に拡充しました。

② 周年記念イベント等の実施

開設から節目の年を迎えたウインズ釧路・ウインズ広島（40 周年）・ウインズ高松（30 周年）・ウインズ姫路（20 周年）・ライトウインズ阿見（10 周年）において、記念イベント等を実施しました。

③ ウインズ・デーの実施

日頃からウインズ等をご利用いただいているお客様に感謝の意を表するため、8 月 10 日（土）・11 日（祝・日）・17 日（土）・18 日（日）に「ウインズ・デー」を実施しました。

(4) 勝馬投票の利便性の向上

① U M A C A 投票（キャッシュレス投票）

U M A C A 投票での購入額に応じて付与される「U M A C A ポイント」について、G I 競走等を対象に還元率の上乗せ又は抽選でポイントが当たるキャンペーンを実施しました。

また、G I 競走当日を中心として競馬場において、U M A C A 新規登録ブースを設置するとともに、ウインズにおいても、U M A C A 会員限定の抽選会などを実施しました。

なお、U M A C A 投票会員に新たに 99, 257 名のお客様にご登録いただき、2024 年末までに会員数は 363, 615 名（対前年比 57, 646 名増）となりました。

② スマッピー投票

全ての競馬場及びウインズにスマッピー専用フロアや専用窓口を設置するとともに、引き続き利用促進キャンペーンを実施するなど、更なる普及と利用拡大を図りました。

(5) 電話・インターネット投票会員の加入促進及び会員向けサービスの充実

① 電話・インターネット投票会員の加入促進

日本ダービー及び有馬記念において、「即PAT新規加入キャンペーン」を実施しました。なお、電話・インターネット投票会員に新たに 932,510 名のおお客様にご登録いただき、2024 年中央競馬終了時点で会員数は 6,521,561 名（対前年比 321,587 名増）となりました。

② サポート体制の充実

電話・インターネット投票に関する様々な問合せに迅速かつ的確にお答えするため、PATサービスセンターにおいて、「FAQシステム」機能のさらなる充実を図るとともに、ホームページ内の「ネット馬券購入」ページをリニューアルするなどの対応を行いました。

③ 電話・インターネット投票会員向けサービスの充実

「Club JRA-Net」のコンテンツの充実を図るとともに、年間を通じて会員向けの各種キャンペーンを実施し、2024 年末までに Club JRA-Net の会員数は約 259 万名（前年比 103.5%）となりました。

また、インターネット投票システムを活用した地方競馬の受託発売を計 238 日実施し、売得金は約 1,725 億円となりました。

④ 電話・インターネット投票の利便性の向上

スマートフォン版投票サイトについて、オッズ投票における「式別表示方法」及び「場名から続けて入力欄」の追加や締切時刻表示等の機能改善を行いました。

(6) 払戻金施策

① 払戻率の設定

② 払戻金の上乗せ

GI 競走直前の計24競走及びJRAアニバーサリー当日の全24競走において、すべての投票法の払戻率を80%に設定したうえで、通常の払戻金に売得金の5%相当額の上乗せを行う「JRAウルトラプレミアム」を実施しました。また、ジャパンカップ当日の「JRAウルトラプレミアム」対象競走を除く23競走において、すべての投票法の払戻率を80%に設定する「JRAスーパープレミアム」を実施しました。

これらにより、年間で通常と比べて7,557,569,730円多く払戻しを行いました。

また、すべての競走・投票法において、通常の払戻金が100円元返しとなる場合に、売得金の範囲内で払戻金に10円を上乗せする「JRAプラス10」について、計716件で4,166,278,000円の上乗せを行いました。

(7) JRA 70周年記念事業の実施

JRAが創立70周年を迎えたことから、JRAのこれまでの歴史を振り返るとともに、日頃より中央競馬をご愛顧いただいているお客様に感謝の意を表するため、一年を通して各種イベントやキャンペーン等を実施しました。

また、記念事業の一環として、9月16日（祝・月）に「JRAアニバーサリー」を実施しました。

さらに、東京国立博物館表慶館において、「JRA70周年特別展示～世界一までの蹄跡～」を実施し、48,034人の方にご来場いただきました。

(8) 販売ネットワークの拡充

J-PLACE松山、かみのやま及び福島において、新たに中央競馬の馬券の発売を開始しました。

J-PLACE種市、盛岡、水沢、三本木、金沢及び大井において発売レース数を拡大しました。

(9) お客様への情報提供の充実

① レース映像の充実

GI競走当日を中心に、引き続き車載カメラやヴァーチャルカメラ、スーパースローカメラ等の特殊カメラを増設し、レース映像を制作・放映しました。

また、競走馬トラッキングシステムを新たに札幌、函館、福島、新潟、中京及び小倉競馬場に導入しました。

② JRAホームページ及びJRAアプリの充実

様々な特設サイトなどの新たなコンテンツを提供するとともに、海外馬券発売時には特設ページを開設し、出走馬やレース等に関する情報の提供を行いました。

また、JRAアプリについて、「情報メニュー」のレイアウトの見直しを行うとともに、「推しウマ・推し騎手」機能や、インターネット投票・UMACA投票からも「馬券メモリアル」を利用可能とする機能などを追加しました。

③ 映像提供施設「VISTA（ヴィエスタ）」の展開

馬券の発売を伴わない映像提供施設「VISTA（ヴィエスタ）仙台」を運営し、97,256人のお客様にご来場いただきました。

また、6月に、「VISTA熊本」を熊本県熊本市に新設し、32,100人のお客様にご来場いただきました。

(10) ホスピタリティの向上

① 競馬場における滞在環境の改善

i) 京都競馬場リニューアル

ステーションサイドのリニューアル工事が 2024 年 3 月に竣工しました。また、2025 年 10 月のリニューアルオープンに向けて、公園地区整備工事を 2024 年 5 月に開始しました。

ii) 阪神競馬場スタンドリフレッシュ

2025 年 3 月のリニューアルオープンに向けて、スタンドリフレッシュ工事を引き続き実施するとともに、キッズガーデン整備工事を行いました。

iii) 競馬場における通信環境の改善

福島、新潟、中山、東京、中京及び京都競馬場において、アクセスポイントの増設や高性能な W i - F i 機器への更新を行い、競馬場における通信環境の更なる改善に取り組みしました。

② 接客体制の充実

スタッフの研修を実施するとともに、専門家による見取り調査等を行い、接客応対の改善を図りました。

また、札幌及び中京競馬場において、統一的なサインシステムに基づくサイン（案内・誘導等）の改善を行い、すべての競馬場において、ホスピタリティ面・視認性に優れるサインへの変更が完了しました。

さらに、札幌、函館、新潟、中山、東京、中京、京都及び小倉競馬場の指定席エリアにおいて、顔認証による通行が可能となるシステムを試験導入しました。

加えて、東京競馬場において、飲食店などの混雑状況を専用のウェブサイト等にてリアルタイムで表示する実証事業を行いました。

5. 馬事の振興及び馬の福祉の充実

(1) 乗馬の普及

各事業所において、乗馬スポーツ少年団や学生を対象とする乗馬指導を実施しました。また、競馬開催時をはじめとして、体験乗馬や馬車試乗会等の馬事イベントを実施しました。

さらに、馬事公苑において、5 月 3 日（祝・金）、4 日（祝・土）及び 5 日（祝・日）に「第 46 回 J R A ホースショー」を開催し、46,344 人のお客様にご来苑いただきました。

(2) 馬術の振興

各種馬術大会の開催を支援するとともに、馬術の振興に関連する諸団体が行う事業に対して助成等の協力を行いました。これまでのこうした取組みの成果として、パリ 2024 オリンピック総合馬術団体において日本代表が銅メダルを獲得いたしました。

また、馬や馬術競技の魅力を体感するアトラクションイベント「馬れる MUSEUM - TOGETHER！2024 -」を競馬場や外部施設など計3か所で実施しました。

さらに、馬事公苑において、9月23日（休・月）に「第49回愛馬の日」を開催し、24,842人のお客様にご来苑いただきました。

(3) 馬事文化の発展への寄与

「競馬博物館」において、特別展やテーマ展等を実施しました。また、馬事公苑内のホースギャラリーや競馬情報発信基地「Gate J.」（東京・大阪）を通じて、競馬や馬に関する幅広い情報を提供しました。

(4) 引退競走馬のセカンドキャリアの促進及びその養老等に関する取組みの推進

12月に馬事公苑において、引退競走馬と内国産乗用馬を対象とした「ジャパンプリーディングホースショー」を開催するとともに、JRA馬事公苑等で引退競走馬をより円滑に乗用馬等へ転用するための調教（リトレーニング）技術の研究・検証に取り組みました。

また、競馬サークル関係者による「引退競走馬に関する検討委員会」を3回開催し、引退競走馬のセカンドキャリア促進を中心とした諸課題への検討を進めるとともに、障がい者乗馬やホースセラピー活動、大学・高校馬術部の支援等に取り組みました。

さらに、引退競走馬の養老等に取り組む団体等への支援を行うなど、馬の福祉の充実に努めました。

加えて、引退競走馬のセカンドキャリア促進や養老・余生の機会拡充、引退競走馬の一時受け入れ施設の運営など、引退競走馬をはじめとする馬の多様な利活用促進に取り組む専門的団体として、2024年2月に設立された「(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare」の基本財産として3,000万円を拠出しました。

6. 持続的な発展に向けた取組み

(1) 社会貢献活動

① 地域社会との連携・協調

各事業所において、防災計画やマニュアルの整備を行うとともに、大規模災害の発生に備え、防災備蓄品の配備・管理を適切に行いました。

また、一部事業所において、地域のイベントへの馬の派遣や、地域住民を対象とした催し物を実施しました。

② 事業所周辺の整備に関する取組み

競馬開催日に、競馬場やウインズ周辺地域において、警備ポストを配置する等の交通対策を実施しました。また、競馬場・ウインズ等が所在する42の自治体に対して、総額53.8億円の環境整備事業費を交付し、事業所周辺の環境整備事業を実施しました。

③ 畜産振興への支援（畜産振興事業）

畜産分野に係る喫緊の対応が必要な事業や安全・安心な畜産物の供給に関わる事業、馬の防疫体制の整備等、畜産の振興に資するための事業に関し、特別振興資金を活用して交付金を交付しました。（別表 10）

(2) 環境への取組み

① 地球温暖化防止

L E D照明器具等の省エネ機器の導入や、太陽光発電システム・バイオマス燃焼発電システムの運用により、事業活動に伴う温室効果ガス排出量の抑制に努め、CO2総排出量は年間 79,753t-CO2/年（対前年比 93.4%）となりました。

② 資源循環型社会の構築への貢献

資源循環の基本原則である廃棄物の「3R（リデュース・リユース・リサイクル）+Renewable（リニューアブル）」に取り組んだ結果、競馬事業に伴い発生する排出物の総量は年間 42,678 t（速報値／対前年比 99.5%）となりました。

③ 地域社会との調和

競馬開催日に、競馬場やウインズ等において事業所周辺清掃や周辺道路の混雑緩和対策を実施しました。

④ 環境マネジメントの推進

「環境委員会」を中心に、環境への取組みを着実に推進する体制を構築し、環境関連法令の順守、廃棄物の適正処理等の環境コミュニケーションを適切に実施しました。また、6月1日（土）、2日（日）の東京及び京都競馬場、8月31日（土）、9月1日（日）の札幌競馬場において、競馬開催日における電力を再生可能エネルギー由来の電力のみで賄う「クリーンエネルギー競馬」を実施するとともに、当日はJ R Aの環境への取組みを紹介するイベント等を行いました。

(3) 組織の運営等に関する取組み

① 法令遵守と透明性の確保

i) コンプライアンスに関すること

役職員に対する研修等を通じて「コンプライアンス行動指針」の周知徹底に努めるとともに、コンプライアンス監査等を実施し、コンプライアンス体制の確認・点検及びコンプライアンス意識の向上を図りました。また、コンプライアンス体制の維持・強化を図るため、「日本中央競馬会参加関連団体共通通報窓口」を引き続き設置しました。

ii) 個人情報、法人文書等の管理に関すること

「個人情報の保護に関する法律」「行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律」「公文書等の管理に関する法律」の規定に基づき、J R Aの保有する個人情報、法人文書等を適切に管理しました。また、各種研修・会議において啓発活動を実施するとともに、コンプライアンス監査等を通じ管理体制を強化しました。

iii) 情報公開に関すること

「独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律」等の規定に基づき、J R Aの保有する法人文書の開示請求 62 件について、適切かつ迅速に対応しました。また、J R Aホームページ等を活用し、J R Aの経営に関する情報等を公開しました。

iv) 契約・入札等に関すること

「入札監視委員会」を 4 回開催し、契約・入札の更なる適正化に向けた点検を行いました。また、入札公告等契約に関する情報を J R Aホームページで公開しました。

② 勝馬投票に関わる違法行為等の防止

i) ノミ行為、違法インターネット賭事及び悪質な競馬情報提供会社による被害等の防止

ノミ行為やインターネット賭事等の違法行為や、悪質な競馬情報提供会社について、J R Aホームページやレーシングプログラム等の各種媒体を通じてお客様への注意喚起を行いました。

ii) 20 歳未満の者の勝馬投票券購入防止

20 歳未満の者が勝馬投票券を購入することのないよう、レーシングプログラムやポスター等で周知を図るとともに、必要に応じてウインズへの入場時や、勝馬投票券購入時の年齢確認を実施する等の対策を講じました。

③ 社会貢献活動や環境への取組み等に関する発信

社会貢献・環境対策CM「Be With. ～競馬のチカラを、社会に。～」を放映したほか、J R Aホームページや各種メディアを通じて J R Aの社会貢献活動や環境への取組みについて発信しました。

(4) 事業基盤の強化に関する取組み

① 効率的・安定的な事業運営

労働生産性の維持・向上及びワークライフバランスの実現を目的として、「スライド勤務制度」を導入するとともに、「在宅勤務制度」の試行運用を行いました。また、D X（デジタルトランスフォーメーション）の推進に取り組みしました。

② 危機管理体制の強化

大規模自然災害等の不測の事態が発生しても事業が継続できるよう、事業継続計画の点検・確認を行いました。

③ 情報セキュリティの確保

「情報セキュリティ委員会」で定めた「対策推進計画」に基づき、情報セキュリティに関する教育、情報セキュリティに関する自己点検及びプログラム開発における品質向上に向けた取組みを行いました。また、外部機関による情報セキュリティ点検を行うとともに、役職員に対する e ラーニング研修や標的型攻撃メール訓練等を実施しました。

④ コンピューターシステムの更新及び全体最適化

トータリゼータシステムをはじめとした各種システムについて、更新及び機能改善・強化を実施しました。また、一層のコンピューターシステムの全体最適化を推進するための基盤構築に着手しました。

⑤ ギャンブル等依存症対策

「ギャンブル等依存症対策委員会」で定めた「ギャンブル等依存症対策実施計画」に基づき、5月のギャンブル等依存症問題啓発週間におけるお客様への注意喚起や競馬場・ウインズ等への入場制限、電話・インターネット投票の利用停止や購入上限額の設定等の対策を引き続き実施しました。

⑥ 国際協調及び国際協力の充実

国際競馬統括機関連盟（I F H A）の副会長国として、また、アジア競馬連盟（A R F）の副会長国として、種々の世界規模の課題について有効な方策の検討や各国・地域間の意見調整を行い、外国競馬統括機関との国際協調の維持及び日本競馬の国際的地位の向上に努めました。

また、アジア競馬連盟副会長国として、アジア諸国と幅広く交流・連携するとともに、8月に札幌で開催された第40回アジア競馬会議をホスト国として円滑に運営し、加盟国間の一層の協調と相互理解の促進を図りました。

さらに、アメリカ、カナダ、イギリス、アイルランド、ドイツ、アルゼンチン、ブラジル、ニュージーランド、オーストラリア、韓国、香港及びサウジアラビアとの交換競走を実施しました。加えて、アジアウィーク（マレーシア、シンガポール、タイ、インド及びフィリピンとの交換競走）を8月31日（土）及び9月1日（日）に札幌競馬場において実施しました。

(5) 人材の確保等に向けた取組み

① 人材確保及び人材養成

騎手を志望する中学生を対象とした「J R Aジュニアユース」活動から4名の騎手課程合格者を輩出しました。

また、若い世代や馬と触れ合った経験の少ない方に対して、競馬に関連する職業を紹介する「U M A J O B」施策を実施するとともに、厩舎や牧場への就業を支援する取組み等を行いました。

さらに、北海道大学・中央大学・法政大学・麻布大学において学生向けに競馬に関する講義を行ったほか、獣医学生を対象とする実習インターンシップや競走馬の獣医師を目指す学生に対する奨学金事業を実施しました。

加えて、階層別研修やゲストスピーカーによる講演会等を通じてJ R A職員等の養成に取り組みました。また、関連団体職員について、中央競馬についての知識と理解を深めるための研修を実施しました。

② 次世代育成

馬に関する講義や馬とのふれあいを行う出張授業を小学校 17 校において実施するとともに、キッザニア甲子園に引き続き「ホースパーク」パビリオンを出展しました。また、「ジョッキーベイビーズ」については、地区予選を全国 7 か所で実施し、勝ち抜いた 8 名の代表者による決勝大会を、10 月 13 日（日）に東京競馬場において実施しました。

<別表目次>

○ 別表1	2024事業年度の各種実績	p. 18
○ 別表2	開催競馬場別開催実績・競走成績	p. 19
○ 別表3	開催回数の推移	p. 20
○ 別表4	開催日数及び競走回数の推移	p. 20
○ 別表5	出走頭数の推移	p. 20
○ 別表6	中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移	p. 21
○ 別表7	売得金の推移	p. 21
○ 別表8	電話・インターネット投票会員数の推移	p. 22
○ 別表9	馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移	p. 22
○ 別表10	特別振興事業について	p. 23
○ 別表11	競走馬総合研究所等における研究について	p. 34
○ 別表12	J R A 賞 受賞馬及び受賞者	p. 36

【別表 1】

◎2024 事業年度の各種実績

①開催回数・開催日数	36 回・288 日
②競走回数	3,454 競走（前年実績 3,456 競走）
③出走延頭数	46,994 頭（前年実績 47,493 頭）
④売得金	3 兆 3,428 億 926 万 5,300 円（対前年比 101.4%）
⑤開催競馬場の入場人員	513 万 5,167 人（対前年比 111.1%）※
⑥お客様総数	2 億 434 万 1,161 人（対前年比 102.2%）

※うち女性入場人員は 110 万 7,625 人（対前年比 116.8%）。全体比 21.6%。

〔売得金〕

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬売得金 (内訳)	3兆3,134億9,707万 600円	101.2%	－
開 催 競 馬 場	891億1,575万6,400円	100.1%	2.7%(2.7%)
パ ー ク ウ イ ン ズ	547億4,693万7,800円	88.3%	1.7%(1.9%)
ウ イ ン ズ	3,068億6,026万7,800円	90.5%	9.3%(10.4%)
J - P L A C E	709億4,365万8,300円	101.8%	2.1%(2.1%)
U M A C A スマート	929億 771万7,900円	*985.1%	2.8%(0.3%)
電話・インターネット投票	2兆6,989億2,273万2,400円	99.7%	81.5%(82.6%)
海外競馬売得金	293億1,219万4,700円	140.0%	－
売得金（中央競馬＋海外競馬）	3兆3,428億 926万5,300円	101.4%	－

※UMACAスマートの対前年比は、前年のサービス開始後約 1 か月半の間との比較になります。
〔構成比については、端数処理をしているため、合計が 100%とならない場合があります。〕

〔お客様総数〕

		対前年比	構成比(前年) ※
中央競馬お客様総数 (内訳)	1億9,967万8,943人	101.5%	－
開 催 競 馬 場	513万5,167人	111.1%	2.6%(2.4%)
パ ー ク ウ イ ン ズ	306万7,800人	97.9%	1.5%(1.6%)
ウ イ ン ズ	2,080万5,555人	100.6%	10.4%(10.5%)
J - P L A C E	547万6,800人	102.0%	2.7%(2.7%)
U M A C A スマート	269万3,480人	*1064.9%	1.3%(0.1%)
電話・インターネット投票	1億6,250万 141人	99.9%	81.4%(82.7%)
海外競馬参加人員	466万2,218人	146.3%	－
お客様総数（中央競馬＋海外競馬）	2億 434万1,161人	102.2%	－

※UMACAスマートの対前年比は、前年のサービス開始後約 1 か月半の間との比較になります。
〔構成比については、端数処理をしているため、合計が 100%とならない場合があります。〕

【別表 2】

1. 開催競馬場別開催実績

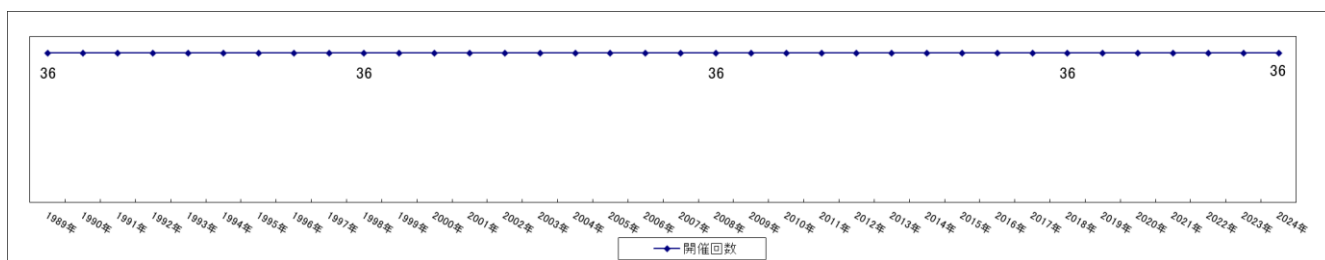
競馬場	開催回数	開催日数	競走数	出走延頭数	入場人員	売得金
札幌	2回	14日	168競走	2,121頭	204,562人	131,300,368,100円
函館	1	12	144	1,763	89,897	94,388,942,300
福島	3	20	240	3,390	212,028	154,490,308,500
新潟	4	28	335	4,609	306,318	233,690,703,500
中山	5	41	492	7,116	817,038	624,497,081,100
東京	5	44	528	7,304	1,536,432	678,053,539,000
中京	4	29	348	4,627	346,687	285,004,719,000
京都	7	60	719	9,604	1,145,672	741,972,635,400
阪神	2	16	192	2,495	252,816	189,828,511,300
小倉	3	24	288	3,965	223,717	180,270,262,400
計	36	288	3,454	46,994	5,135,167	3,313,497,070,600

2. 競走成績

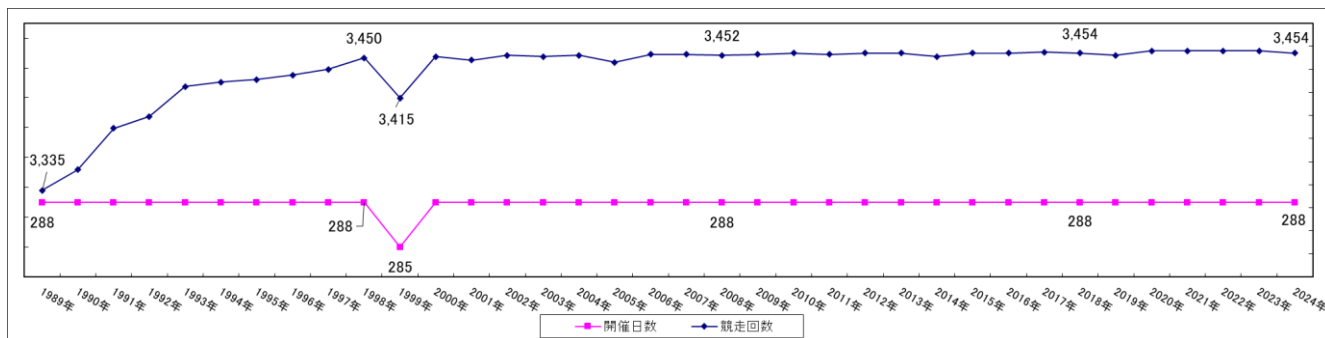
種別	競走回数				出走延頭数	出走実頭数	1競走平均 出走頭数
	一般競走	特別競走	重賞競走	合計			
2歳	589回	38回	14回	641回	7,935頭	3,285頭	12.4頭
3歳以上	1,823	748	115	2,686	37,676	8,239	14.0
障害	109	8	10	127	1,383	461	10.9
合計	2,521	794	139	3,454	46,994	11,772	13.6

※ 平地競走と障害競走の両方に出走した馬の数は、213頭

【別表 3】開催回数の推移（1989 年以降）

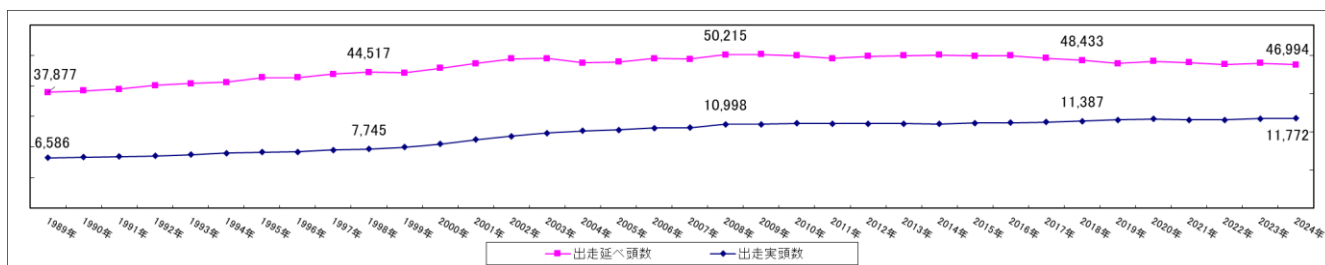


【別表 4】開催日数及び競走回数の推移（1989 年以降）

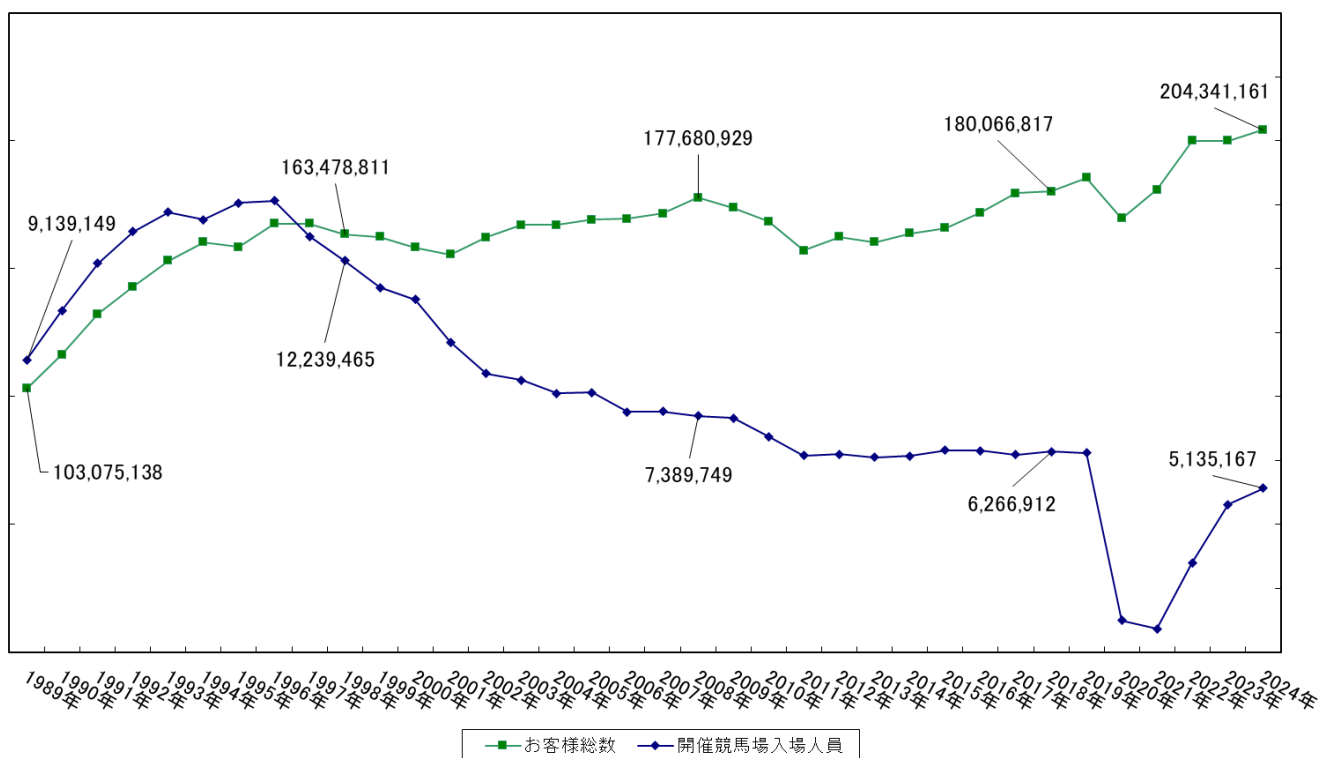


注）平成 11 年：厩務員春闘の影響により 3 回中山第 3 日、2 回阪神第 3 日、2 回中京第 3 日を取止め

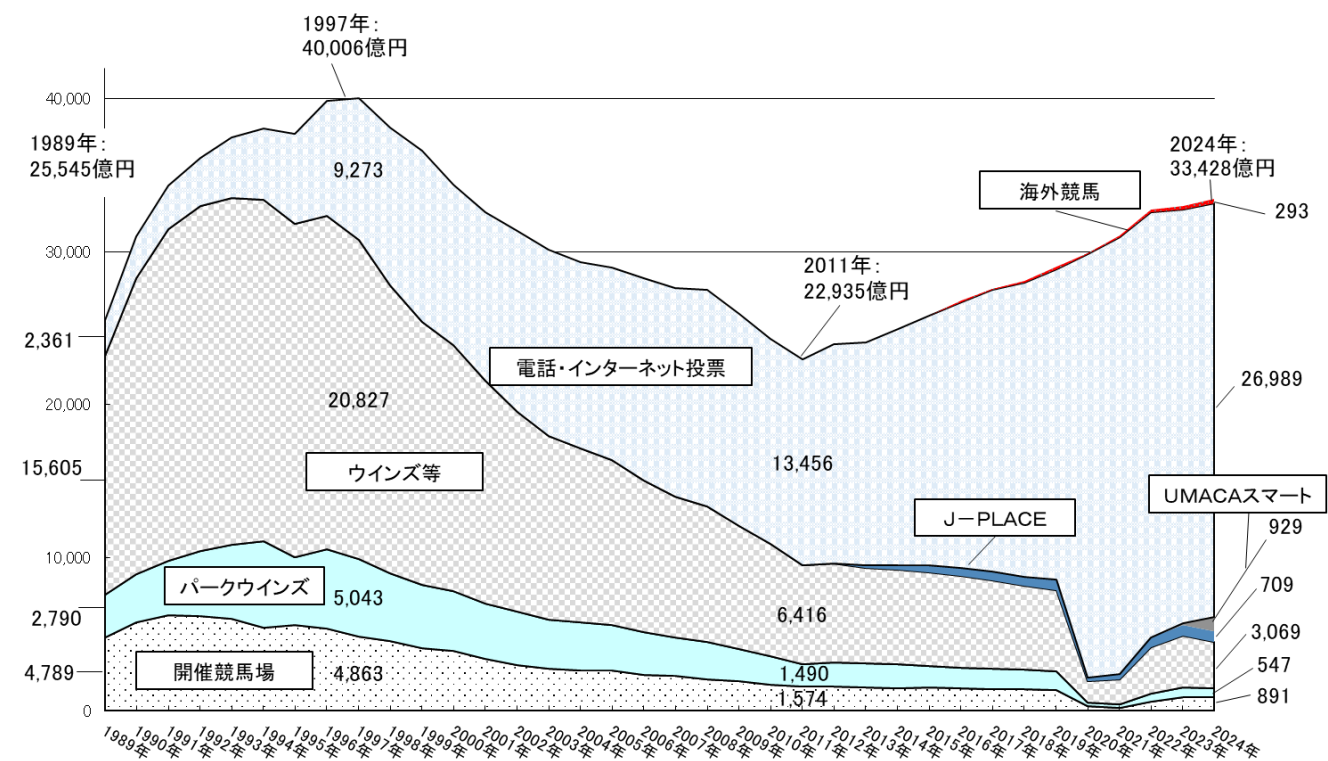
【別表 5】出走頭数の推移（1989 年以降）



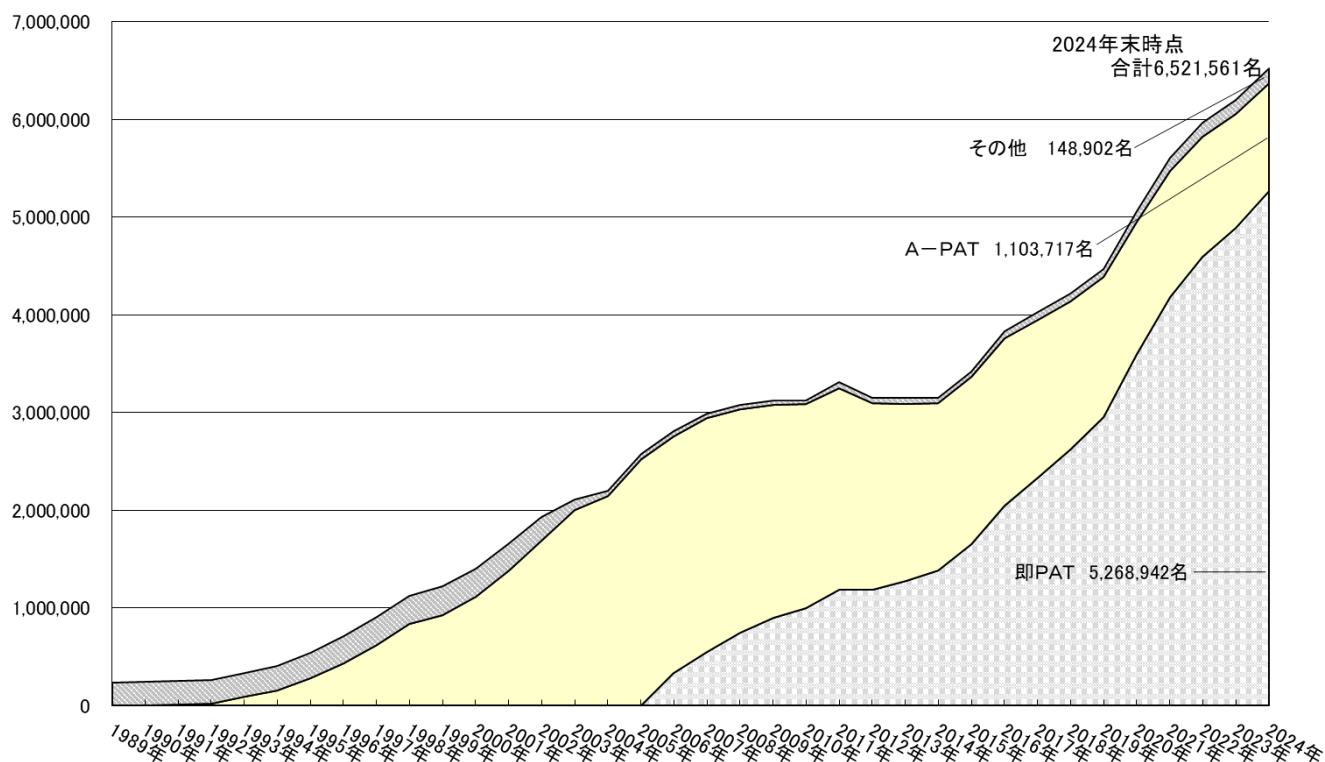
【別表 6】 中央競馬のお客様総数及び開催競馬場入場人員の推移



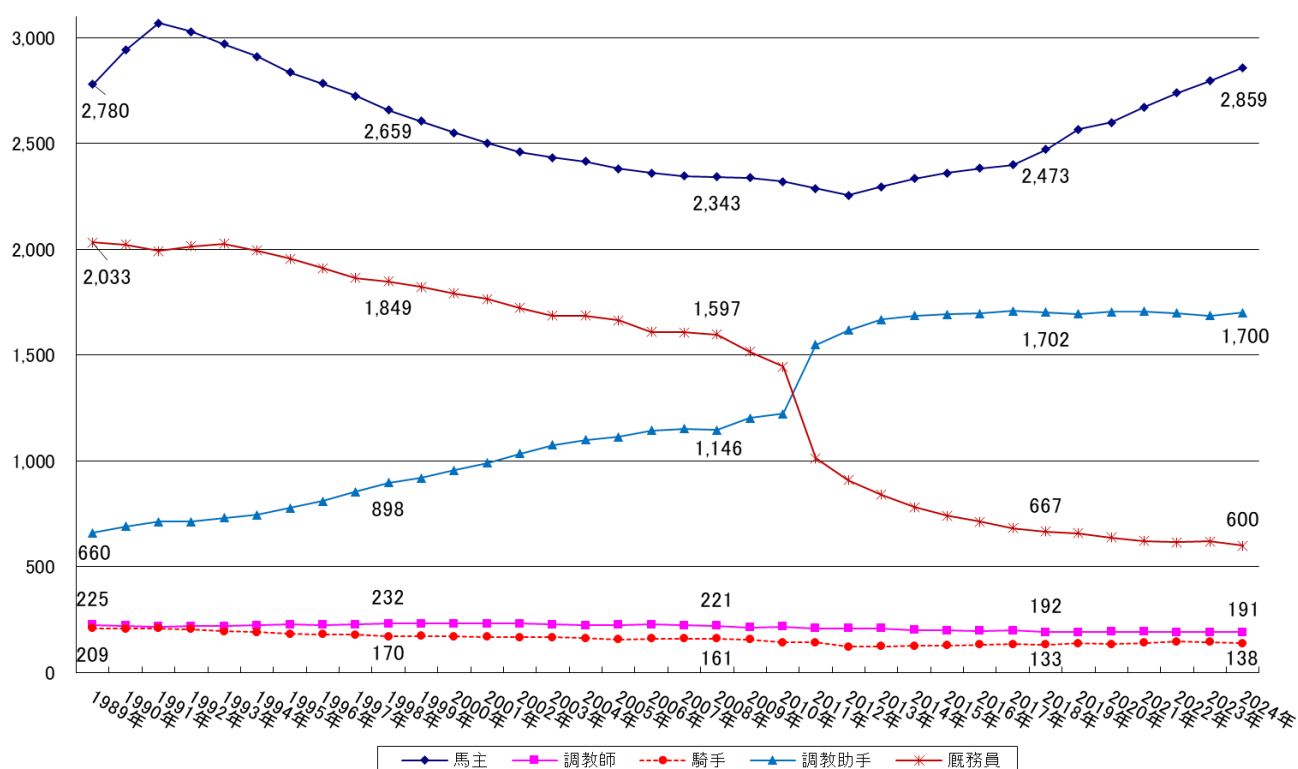
【別表 7】 売得金の推移



【別表8】 電話・インターネット投票会員数の推移（1989年以降）



【別表9】 馬主・調教師・騎手・調教助手・厩務員数の推移（1989年以降）



【別表 10】

◎ 特別振興事業について

① 競馬振興事業（2024 事業年度）

【J R A 直接実施事業】

事業名	事業内容	実施額（円）
1. 競馬理解増進総合事業 （競馬場誘引型） （催事型） （メディア活用型） （馬事紹介型）	・競馬場への来場を誘引するための催事の実施 ・競馬未経験層を主な対象としたキャンペーンや催事等の実施 ・メディア等を通じた競馬未経験層への理解増進 ・馬を活用した催事等の実施	2, 442, 222, 556
2. 厩舎関係者救護体制円滑化事業	医療機器整備を通じた競馬場等の近隣医療機関との連携強化	74, 568, 125
3. 競走馬の獣医師を目指す学生のための学業奨励事業	競走馬の獣医師を目指す大学の獣医学生を対象とした奨学金給付	40, 610, 000
4. 国際競馬振興事業	国際競馬振興関連経費、諸外国における日本競馬プロモーション展開等	131, 465, 814
5. ウィンズ防災体制整備事業	都市型ウィンズにおける防災備蓄品の更新・配備	17, 448, 200
6. 第40回アジア競馬会議の開催（札幌大会）	第40回アジア競馬会議の開催（アジア競馬連盟諸国等との競馬に関する諸問題や最新情報の共有）、生産地視察等の実施	851, 868, 105
7. ギャンブル等依存症対策事業	全国公営競技施行者連絡協議会が実施するギャンブル等依存症対策に取り組む民間団体への支援等	23, 677, 624
8. 軽種馬育成調教センター（BTC）調教施設整備事業	屋内1, 000mトラック馬場の新設及び滞在厩舎・宿舍の増設	21, 564, 730
9. 馬産業人材不足対応事業	人材募集のためのポータルサイト制作及び馬産業の就職フェア（UMAJOBフェア）の実施等	80, 000, 000
10. 「引退競走馬のセカンドキャリア形成及び養老・余生環境の拡充等に向けた取組み支援事業」、「馬の多様な利活用促進等事業」、「馬術・乗馬の裾野拡充」及び「馬産業の人材養成、適切な馬の取扱い等に資する事業」 【直接実施分】	引退競走馬のセカンドキャリア形成促進や高齢・引退馬の養老・余生に関する諸施策の構築・拡充、引退競走馬関連の活動、馬事振興・乗馬普及への理解促進等目的とする映像情報等の制作・発信、各種広報、イベント等	238, 745, 147
11. 大学馬術部活動支援事業	大学馬術部の活動を安定的に維持し、拡充させるための繋養費等の補助	218, 900, 000
12. 根岸競馬記念公苑整備事業【直接実施分】	馬に関わる文化の普及と保存を担う中心的な役割を果たす根岸競馬記念公苑の整備工事設計等	38, 181, 968
13. 本会外施設を利用した競馬及び馬事文化への理解醸成事業	東京国立博物館における中央競馬や競走馬の歴史等に焦点を当て本会所有博物館の所蔵品等を展示、紹介する企画展の実施（J R A 70周年記念事業）	146, 916, 739
合 計		4, 326, 169, 008

【助成事業】

事業名	事業実施主体	事業内容	交付額（円）
1. 厩舎関係者海外研修事業	(一社) 日本調教師会	厩舎関係者に対する研修の実施	28,000,000
2. ウォーキングマシン導入支援事業	(一社) 日本調教師会	トレーニング・センターにおける調教補助設備（ウォーキングマシン）導入に係る支援	35,048,539
3. 功労馬繋養支援事業	(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	競馬の発展に貢献した功労馬の飼養管理支援、養老・余生の環境作り	66,000,000
4. 競走馬マイクロチップ埋込推進事業	(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	マイクロチップ埋込に係る経費の一部補助	20,639,000
5. 日本競馬の情報・技術発信事業	(公財) ジャパン・スタッドブック・インターナショナル	海外へのレース映像配信、ウェブサイト等を通じた海外への日本競馬情報発信及び人材交流等を通じた技術交流の促進	130,000,000
6. 競馬場周辺交通機関整備事業	新潟交通(株)	お客様及び競馬場周辺住民の利便性の向上、環境改善等に資する競馬場停留所路線を運行する民間のバス事業者による環境対策・安全性に配慮したバスの調達に対する助成	60,949,300
7. 地方競馬との共同広報事業	特別区競馬組合 兵庫県競馬組合	地方競馬主催者と共同で行う情報提供・広報宣伝	209,256,314
8. 軽種馬改良情報システム 整備事業	(公社) 日本軽種馬協会	オンラインビッド・セールシステムの改修・整備	22,000,000
9. 地方競馬振興促進事業	兵庫県競馬組合、愛知県競馬組合、佐賀県競馬組合	地方競馬場、発売施設の整備等	262,437,450
10. J B B A軽種馬生産・育成技術者養成推進事業の施設整備事業	(公社) 日本軽種馬協会	研修所乗馬厩舎の改築及び乗馬詰所（管理所）等の改修	465,000,000
11. 国際サラブレッド生産者連盟（ITBF）会議の開催事業	(公社) 日本軽種馬協会	世界の主要なサラブレッド生産国が参加する国際団体（ITBF）の日本における国際会議の開催	94,181,503
12. 競走馬理化学研究所における国際リファレンスラボラトリー体制強化事業	(公財) 競走馬理化学研究所	海外検体検査体制の構築（検査用機器の購入等）及び国際業務を継続的に実施できる人材の確保・育成（国際業務担当者雇用経費、海外技術研修費用）	135,820,000
13. 新薬物検査体制の国際標準化における地方競馬検査経費に対する助成事業	地方競馬主催者14団体	地方競馬主催者14団体に対する検体検査料金の一部助成	366,324,750
14. 馬のアニマルウェルフェアに関する理解促進・普及等事業	(一財) Thoroughbred Aftercare and Welfare	馬のアニマルウェルフェアに関する適切な理解促進・普及のための講習会の実施及び資格制度新設のための仕組みづくり	65,000,000
15. 馬術競技の国際的競技力の基盤強化及び馬術振興・乗馬普及等に資する「馬術競技の強化・振興及び活性化等を推進支援する事業」	(公社) 日本馬術連盟	2024年パリオリンピック・パラリンピックを目標とした馬術競技の強化や馬術振興、乗馬普及に結びつく事業、馬術競技の活性化等に資する取組み	630,000,000
	(公社) 日本近代五種協会		25,000,000
	(公財) 三木山人と馬とのふれあいの森協会		265,000,000

16. 「引退競走馬のセカンドキャリア形成及び養老・余生環境の拡充等に向けた取組み支援事業」、「馬の多様な利活用促進等事業」、「馬術・乗馬の裾野拡充」及び「馬産業の人材養成、適切な馬の取扱い等に資する事業」【助成分】	(公社)全国乗馬倶楽部振興協会	引退競走馬を始めとする馬の多様な利活用促進、引退競走馬のセカンドキャリア促進及び養老・余生環境の整備、馬に係わる人材の養成、大学馬術部等の活動支援、障害者乗馬・馬介在活動（ホースセラピー活動）の拡充、馬のアニマルウェルフェアに関する取組み、馬術・乗馬に関する情報発信、馬事公苑の利活用促進等	1,221,000,000
	(一財)Thoroughbred Aftercare and Welfare		315,000,000
	(一財)グリーンチャネル		331,693,050
17. 根岸競馬記念公苑整備事業【助成分】	(公財)馬事文化財団	事務所の移転、収蔵品の移動及び保管	210,000,000
18. 馬の博物館収蔵資料のデジタル保存事業	(公財)馬事文化財団	馬の博物館が収蔵している写真フィルム等のデジタル保存・管理	11,993,390
合 計			4,970,343,296

②畜産振興事業（2024 事業年度）

事業名	事業実施主体	事業内容	交付決定額 (千円)
1. 耐性菌を出現させない抗菌薬療法確立事業	国立大学法人 鹿児島大学	抗菌薬投与に伴う耐性菌の出現を阻止できる抗菌薬療法を確立する。このことは、更なる抗菌薬の適正使用へと繋がり、抗菌薬の使用量削減や耐性菌の出現阻止に貢献し、食料安全保障の強化のための対策を大きく推進する。	50,979
2. 養豚における豚インフルエンザ対策強化事業	学校法人 明治大学	我が国における豚インフルエンザの流行状況に関する疫学調査を実施すること、原因ウイルスの遺伝的特徴を解明することにより、制御に有効な対策を構築し、養豚農家の生産性の向上と経済被害の防止に貢献することを目指す。	84,714
3. 家畜のウイルス性下痢症の感染制御事業	国立大学法人 東北大学	子牛の下痢症の原因の中で最も致死率の高いウシロタウイルスの全遺伝子決定、ロタウイルス、クリプトスポリジウムに対する薬剤スクリーニング、ウシロタウイルス感染牛の腸内微生物の群集構造解析を行う。	38,944
4. ブライダルチェックを基盤とした全方位牛群の健幸確立事業	国立大学法人 山口大学	生産性に影響を与える潜在的要因に加えて、「幸福度」を加えたモニタリング系を確立するとともに、AI 導入による新規牛受精卵移植法を開発して、牛群の罹患率や死亡率の減少と受胎率の向上を目指す。	114,140
5. 人工 EVs による細菌感染制御法開発事業	国立大学法人 京都大学	非病原性大腸菌の産生する細胞外小胞がグラム陽性菌の増殖を強く抑制する事に着目し、遺伝子工学的に EVs の表層に豚レンサ球菌に対する低分子化抗体を発現させた人工改変型 EVs を作製し増殖抑制機構を明らかにしてその効果を実証する。	38,979

6. 国産チーズ・ブランド化事業	学校法人日本医科大学 日本獣医生命科学大学	国産チーズの日本独自の乳酸菌スターター、麹菌及び国産ホエイを積極的に活用した乳製品開発事業の深耕と普及拡大を推進し、国産チーズ及び乳製品の生産拡大を支援し、酪農生産基盤の安定・強化と乳資源廃棄ゼロの持続可能な開発目標の取り組みに貢献する。	53, 887
7. 和牛エピゲノム有効活用事業	国立大学法人 京都大学	DNA のメチル化修飾との関連解析及び各エピゲノムマーカーの存在するゲノム領域の機能解析を並行して行うことにより、生物学的機序に裏打ちされた家畜のエピゲノムの有効活用法を確立する。	62, 805
8. 乳・肉用牛の精密栄養管理技術確立事業	学校法人 東京理科大学	非侵襲的手法によって牛の血液成分を取得し、栄養状態を的確に管理し、飼養者の労働負担低減に寄与し、かつ繁殖成績が向上することを目的とする。	67, 451
9. ペレニアルライグラス導入草地の安定化事業	国立大学法人 北海道大学	ペレニアルライグラス (PR) 冬枯れリスクマップの精度向上と検証を実施し、チモシーと PR の適正な植生割合を維持する草地管理技術を確立する。北海道東部地域の土壤凍結地帯における高品質な放牧草地を維持できる技術を構築し、促進させる。	7, 768
10. 品種に基づく牛伝染性リンパ腫全国疫学調査事業	国立大学法人 東京大学	牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) の感染状況と病態進行を調査し、遺伝学的調査、長期間継続調査及び感染実験により、品種や地域によって、BLV 感染状況が異なる原因を明らかにし、BLV の清浄化戦略及び育種選抜の礎を築く。	82, 364
11. 豚肉加工品を核とした循環型経済圏モデル事業	国立大学法人 山形大学	加工仕向用豚肉は精肉よりも輸入への依存度が極端に高く、飼料、飼料生産を支える肥料資源も極端に輸入に依存していることから、地域飼料資源を活用した加工仕向けに特化した豚肉生産技術を検討し、豚肉加工品を核とした循環型農村経済圏モデルを構築する。	65, 006
12. 病原大腸菌制御研究による牛肉輸出促進事業	国立大学法人 広島大学	国産牛肉輸出促進により、高密度飼養による病原大腸菌出現・拡散を牛及び施設検査により明らかにするとともに、簡易迅速検査法の確立を目指すことで、肉用牛経営の増頭・増産を図るための生産基盤の強化につなげ、輸出拡大につながるものである。	64, 853

13. 馬パラチフス撲滅に向けた予防戦略確立事業	国立大学法人北海道国立大学機構 帯広畜産大学	過去の発生事例に基づく馬パラチフス疫学調査により分子疫学的特性や発生牧場の血清抗体価の推移と飼養衛生管理状況との関連性を明らかにするとともに、流産の機序の理解、本病の診断法の改善や新規ワクチン開発に貢献することを目的とする。	80,771
14. BLV の包括的経済損失予測検査法開発事業	学校法人 麻布獣医学園 麻布大学	牛伝染性リンパ腫ウイルス (BLV) の感染拡大による経済損失に関与する特定のウイルス株を解析することで、経済損失額が高いウイルス株を簡易・迅速に検出できる検査法を開発する。その検査法により、リスクを未然に予測し、経済損失を低減する効率的な対策の推進を図る。	74,921
15. 新規低受胎牛対策による酪農経営健全化事業	国立大学法人 北海道大学	子宮機能異常に対するホルモン療法及び従来からの低受胎牛対策との効果を比較するとともに、それらとの併用によりその効果を最大限に活用し、酪農経営の高収益化につながる低受胎牛対策ガイドラインを立案し、有効性を検証する。	67,574
16. 若齢種雄牛精液の受胎性向上技術開発事業	一般社団法人 家畜改良事業団	ゲノミック評価等の高度技術の普及により、若齢種雄牛を牛群改良の加速化に活用できる体制が整ってきたが、若齢種雄牛の中には精子機能の未熟な個体が存在しているため、若齢種雄牛の精子機能検査技術ならびに精子機能を維持向上させるための生産技術を開発する。	110,735
17. 牛乳房炎の予兆検出技術開発事業	国立大学法人 東京大学	乳房炎は最も頻度の高い乳牛の感染症であり、高感度な診断技術を開発してその予兆を捉え予防する必要がある、測定法の確立等をおこなうことで、乳房炎の「すぐ見える化と予防」を可能にし、生産性の向上につなげる。	91,213
18. 乳牛の分娩間隔短縮技術改良・実証事業	国立大学法人 北海道大学	乳汁中プロゲステロン濃度の簡便・迅速な測定を可能とするペーパーマイクロチップを開発し、不受胎牛の早期摘発に伴う授精機会の増加により分娩間隔の短縮を目指す。	65,629
19. 8 大学連携による家畜伝染病早期警戒網構築事業	国立大学法人 宮崎大学	すでに組織された大学連携を有機的に活性化し、高病原性鳥インフルエンザをモデルに新技術を用いた全国調査により早期警報ネットワークの構築に取り組み、構築したネットワークの他の感染症防疫への展開を目指す。	38,680

20. 豚体重別の空調最適化による生産性向上事業	国立大学法人 鹿児島大学	IoT 機器により温度・湿度・CO2・風量等をセンシングし、豚体重別の温熱環境最適化を実現する自動環境制御システムを開発するとともに、生産性向上効果に関する総合的な研究・実証を行うものであり、養豚事業の収益性改善と環境負荷の低減に寄与するもの。	84,061
21. 褐毛和種高知系の精密生産技術開発事業	国立大学法人 高知大学	和牛生産の持続可能性を向上させることを目標に、褐毛和種高知系をモデルとして多様な肉質の肉牛生産を可能とする技術開発を行い、将来にわたる畜産振興に貢献する。	115,047
22. 飼料用昆虫の機能性評価及び利用促進事業	国立大学法人 香川大学	昆虫タンパク質や、昆虫油の飼料の公定規格への設定申請及び消費者へ飼料用昆虫の情報普及、利用促進することで、海外に依存した濃厚飼料の含有量を抑えた飼料の製造が国内で可能となり、持続性の高い畜産の実現と飼料自給率の向上に貢献できる。	76,044
23. 非ゲノム情報活用による雄牛繁殖性予測事業	国立大学法人 東京農工大学	黒毛和種若雄牛の繁殖性に関連する新たなバイオマーカーとして、非ゲノム情報に着目する。新たに開発されるウシ用 DNA マイクロアレイ等を駆使してその情報を取得し、AI や機械学習法による若齢種雄牛の繁殖性評価モデルの構築を目指す。	63,954
24. 昆虫飼料活用に向けた子豚給与試験事業	国立大学法人 東京農工大学	地域から排出される未利用な植物性廃棄物を用いて生産可能なアメリカミズアブ幼虫原料の飼料添加物が子豚の健全な育成を促進する機序を明らかにする。	7,800
25. 放牧に適した踏圧に強いシバ型牧草開発事業	一般社団法人 日本草地畜産種子協会	西南暖地に適したシバ型牧草を対象に、収量性、利用期間及び採種性等に優れるとともに牧草の再生力を維持できるよう踏圧にも強い優良系統を育成し、もって中山間地域における放牧の拡大に資する。	115,220
26. 薬剤削減のための豚腸-肺免疫連関実証事業	国立大学法人 東北大学	育種・飼養の技術融合による腸肺免疫連関を動物レベルで実証し、腸炎の制御と肺炎に対するワクチン応答の向上を両立させ、抗生物質や抗菌性飼料添加物に代替する新たな豚の健全育成戦略の確立を目的とする。	110,746
27. 客観的な農場及び牛群評価法の確立による BRDC 削減事業	公立大学法人 大阪	牛呼吸器病症候群 (BRDC) による経済的損失を削減するために、現在主観的に評価されている牛群管理について、客観的に評価する方法を確立し、その評価法を基盤とした衛生対策により BRDC を低減する流れについて標準化することを目的とする。	57,830

28. 牛伝染性リンパ腫発症検査の実用化推進事業	学校法人 東京農業大学	クローナリティを利用した発症検査法を、実用的に使用できる検査へと応用するための基礎研究を行い、BLVと治療可能な他疾病との判別が可能となるだけでなく、発症牛を早期に発見し対策を行うことが可能となり、農家の経済的負担軽減に貢献する。	3,900
29. 日本標準飼料成分表改訂支援事業	一般社団法人 日本科学飼料協会	日本標準飼料成分表の改訂以降、国産子実トウモロコシ等の生産拡大、配合飼料原料については調達先の多様化や新規品種の導入等変化してきており、国産濃厚飼料及び配合飼料原料の栄養成分を確認し、日本標準飼料成分表の改訂に利用する。	88,879
30. AI による乳牛健康管理システム開発事業	国立大学法人 宮崎大学	非接触センサ情報のアルゴリズム解析に最先端のAI技術を用いることで、乳牛に焦点を当てた全自動健康モニタリングシステムの構築を目指すことで、動物に苦痛を与えない方法で、体調の変化を効果的に監視・分析し、酪農家の負担軽減と牛の適切な健康管理を行う。	38,834
31. 乳牛健全性向上に向けた生乳分析高度化事業	国立大学法人 北海道大学	乳牛の健全性及び乳の品質向上に資する情報の酪農家へのフィードバック体制を構築するため、酪農家バルク乳調査及び牛個体乳の調査を実施し、自動乳成分測定装置の高度化及び新規のNIR型乳成分測定装置を開発するとともに農家への情報伝達ツールを開発する。	77,723
32. 動物用医薬品輸出促進事業	公益社団法人 日本動物用医薬品協会	世界の様々な伝染性疾患の発生予防・蔓延防止には、我が国のワクチン等動物用医薬品の輸出・普及を進める必要があるが、輸出障壁の一因となっている輸出先国の動物用医薬品の輸入制度について調査し、輸出促進の一助とする。	9,090
33. 多様性確保に資す黒毛和種母系維持確保事業	竹の谷蔓牛活用推進協議会	「黒毛和種の遺伝的多様性確保」の実効性を高めるため、遺伝距離がある希少母系に着目し、和牛肉の優位性を保ちつつ近交の高まりを緩和できる種雄牛が選抜可能な母系群を維持確保できる体制を実証する。	52,075
34. 海外ハラルと畜技術等調査推進事業	公益財団法人 日本食肉生産技術開発センター	政府の牛肉輸出拡大目標の達成のためには牛肉の需要の伸びが期待されるイスラム諸国への輸出拡大が重要な課題となっているが、そのためにはハラルと畜の認証が必要であり、牛肉輸出国の技術等を調査することにより、ハラル牛肉の輸出拡大に資する。	73,133
35. 供給リスク増大下の食肉事情等理解醸成事業	公益財団法人 日本食肉消費総合センター	食肉をはじめ食料供給のリスクが増大しており、国内の畜産経営も飼料価格の高騰等により厳しい状況に直面している。このため、最近の食肉の供給事情や食肉の適正な価格形成に対する一般消費者の理解を醸成することにより、将来にわたって食肉の安	38,549

		定供給を図る。	
36. 生乳と乳製品の安全性・信頼性向上事業	公益財団法人 日本乳業技術協会	生乳を販売し経営を続けようとする酪農家の取り組みを、①6次化乳製品の安全性、信頼性向上のための技術支援、②生乳取引における検査精度の向上のための認証制度の普及強化を行うことによって支援する。	115,006
37. 汚水浄化施設最適管理支援技術実証普及事業	一般財団法人 畜産環境整備機構	水質センシング手法と開発アプリに基づく浄化施設高度管理システムの課題解決や使い勝手の改善を行うことでシステムの実用性と信頼性を高めるとともに曝気量の適正調節による水質の維持と消費電力量の節減の両立を実証し、環境規制遵守と収益向上に寄与する。	98,504
38. 孵化場体質強化推進事業	一般社団法人 日本種鶏孵化協会	鶏卵・鶏肉生産量の需給予測データとしても必要不可欠な、ひな統計は重要なツールであり、また、衛生管理技術を習得した人材の養成も経営上必須であることから技術研修会の開催により、業界全体の技術向上・経営改善を図る。	11,535
39. 畜産経営の持続可能な開発目標対応調査事業	一般社団法人 全日本畜産経営者協会	全国・全畜種の畜産経営者を対象として、特に生産者の関心の高い畜産DX及びアニマルウェルフェアに対する取組状況を調査し、課題、解決方策等の結果を公表することで、畜産経営の安定及び発展に資する。	16,957
40. 養蜂 GAP 推進のための指導者育成事業	一般社団法人 トウヨウミツバチ協会	養蜂 GAP 認証プログラムを完成させ、養蜂 GAP 推進のための指導員を育成し、研修会を開催しながら養蜂 GAP 指導の手引書等を作成し、講習会等を開催し、国際水準 GAP が実施されるよう、効果的な指導方法の確立や導入を推進する。	66,077
41. 仮想フェンシング技術海外開発状況調査事業	公益社団法人 畜産技術協会	GPS を利用するヴァーチャル（仮想）フェンシング技術は牧柵なしで家畜を一定の場所に閉じ込め、移動・誘導することを可能にする技術で、日本での利用可能性を評価する目的で海外での活用実態を調査し、結果を全国の畜産関係者と関係各所へ提供する。	28,784
42. 馬伝染性疾病防疫推進対策事業	公益社団法人 中央畜産会	馬インフルエンザ、馬鼻肺炎の発生防止や、競走用育成馬及び繁殖牝馬における馬インフルエンザ等の伝染性疾病発生防止のため、ワクチンの予防接種を推進し、疾病に対する高い免疫の確保、維持・構築を図り、馬事振興に資する。	266,304
43. 地域養豚生産衛生向上対策支援事業	公益社団法人 中央畜産会	養豚生産主要地域において、農家、獣医師、行政、関係団体等で構成する自衛防疫組織を活用して、生産性を阻害する慢性疾患の衛生対策を実施し、安定的な養豚経営に資する。	147,234

44. 馬飼養衛生管理特別対策事業	公益社団法人 中央畜産会	地域の馬獣医療を担う獣医師の育成・診断技術の向上を図るとともに、馬飼養関係者の知識の習熟を図り、馬の飼養衛生管理の充実・強化を図る。	47,645
45. 家畜疾病・自然災害緊急支援体制推進事業	畜産経営支援協議会	口蹄疫、鳥インフルエンザ、豚熱等の家畜伝染性疾病や台風、地震等の大規模災害が発生した際の初動対応に必要な緊急用機材・資材の備蓄を行い、常に稼働可能な状況を保持し、緊急対応を支援し、家畜衛生の改善、畜産経営の向上に資する。	66,588
46. 人材確保・育成に係る人事制度事業	公益社団法人 日本農業法人協会	畜産経営体が自組織に合わせた人事評価制度の仕組みの構築が行えるよう、「従業員に期待される適性資質・行動特性」、「評価基準と運用面の見直し」、等を調査・情報収集し、有益情報の提供及び、活用できる教材等を作成する。	20,334
47. 消化試験指示物質の切り換え促進事業	一般社団法人 日本科学飼料協会	家畜を用いた消化試験では、酸化クロムを使用しているが、環境への負荷が少ない酸化チタン等への切り換えが推奨されているが、容易に切り換えることができないため、酸化チタンが指示物質として利用しやすくなるよう、酸化チタンの比色法での分析の認知を促す。	8,252
48. 生産獣医療提供体制構築支援事業	公益社団法人 全国農業共済協会	獣医師と畜産農家の生産獣医療に係る契約を全国規模で家族経営も含めた多様な経営形態に普及し、疾患の低減、繁殖成績の改善等により生産性の向上を図り、酪農・畜産経営状況を改善することにより、わが国酪農・畜産の維持・発展に資する。	72,285
49. ランピースキン病ワクチン接種体制整備事業	公益社団法人 日本動物用医薬品協会	ランピースキン病は、韓国等の近隣諸国で継続的に発生しており、侵入リスクが高い状況が続いている。本病の防疫対策には、ワクチン接種が不可欠とされているが、ワクチンを輸入し、万一の場合に備え、我が国におけるワクチン接種体制を整備する。	311,062
50. ふ化場における AW 認証制度検討事業	公益社団法人 畜産技術協会	ふ化場における AW 認証制度や認証に必要な評価項目の検討・作成等により、ふ化場及び畜産全般における AW の普及・推進を図る。	21,242
51. 肉用牛生産性形質遺伝評価技術実用化事業	一般社団法人 家畜改良事業団	子牛生産、肥育、と畜後の畜産物における生産性に関する形質の情報収集を強化し、各形質についてゲノミック評価を実用化する。また、ICT を用いた肥育牛等の行動記録から耐暑性、飼料利用性などの改良へ繋げるための基礎データの収集を強化し、統計解析を行う。	139,765

52. 親鶏肉普及推進・流通強化事業	一般社団法人 処理流通協会	日本成鶏	HPAI 感染拡大に伴う採卵鶏の大規模な殺処分により成鶏肉の供給量が大幅に減少し、成鶏処理業者は深刻な経営難に直面しているため、成鶏肉の食味等を科学的に明確にし、高付加価値・高単価の商品を普及推進することで成鶏業界の安定的な維持・発展に寄与する。	18,784
53. アジア獣医師総合研修及び普及促進強化事業	公益社団法人 師会	日本獣医	アジア諸国の臨床獣医師等に獣医学系大学等において先端の知識・技術を含む臨床業務等を習得させ、各国の家畜衛生の向上を図り、研修修了獣医師との情報交換及び連携・協力体制を維持発展し、日本の家畜衛生向上に必要な情報収集を行う。	297,920
54. AWに配慮した乳用牛の飼養管理普及事業	公益社団法人 協会	畜産技術	AWの更なる導入と向上を目指すためには、AWの基本的な考え方や従来と異なる管理方法等の理解が今後の課題となるため、飼養管理に関する情報を収集し、AWの考え方や対応事例等の情報を提供することで、飼養者及び関係者等へのAWの普及・推進を図る。	15,127
55. 環境調和型持続的肉用牛生産体制推進事業	一般社団法人 牛振興基金協会	全国肉用	国内資源を活用した効率的生産や環境負荷軽減、AW等に対応した生産を推進するとともに、新たな価値観構築のための客観的評価法を検討、情報発信することで、持続可能な生産体制強化を図り、消費者や輸出国の支持、理解を得ることで国内外の和牛肉の需要拡大を図る。	105,881
56. 国産食肉理解促進食育実践事業	全国食肉事業協同組合連 合会		食育に係る人材育成など実践的な取組みを強化し、国産食肉の品質、安全性、さらには生産事情等の的確な情報発信等を通じて国産食肉への消費者理解を醸成するとともに、国産食肉の需要拡大、国内生産の持続的な発展に資する。	168,528
57. 牛削蹄技術の普及向上促進事業	公益社団法人 蹄協会	日本装削	AWに配慮した飼養管理や生産性向上に欠かせない牛のフットケアに関する技術や知識の普及のため、牛削蹄技術や削蹄競技大会の紹介などの動画作成と Web 等を活用した広範な人々に削蹄技術を普及させる仕組みを構築する。	84,351
58. 多様なニーズに対応する馴致調教指導事業	公益社団法人 倶楽部振興協会	全国乗馬	遠野、十勝、根釧地各乗用馬生産地における若手後継者の中から、近年、乗用馬市場成績等において優良な実績を上げている者を選抜し、これからの多様な乗用馬ニーズに合致する若馬を育成・流通させるための馴致調教事業を実施する。	12,777
59. 次世代の養蜂人材育成のための研修事業	公益社団法人 業協働協会	国際農林	養蜂産業人材育成の学習プログラムを導入するため、養蜂の意義・役割に加え、養蜂産業の課題や課題解決のアプローチを学び、養蜂産業への関心を深めることを目的とし	19,971

		た高校生向けの研修を実施する。	
60. 乗用馬防疫推進事業	公益社団法人 全国乗馬倶楽部振興協会	登録乗用馬に対し、軽種馬防疫協議会の予防接種要領に基づき、馬伝染性疾病である「馬インフルエンザ」、「日本脳炎」及び「破傷風」の予防措置として、ワクチン接種を的確に実施した場合、その予防接種に掛かる費用を助成する。	37,946
61. 畜産ティーン育成プロジェクト事業	公益社団法人 国際農業者交流協会	畜産の新しい発見や魅力を再認識させ、将来畜産業に就業する動機付けを企てるため、高等学校生徒を対象に畜産業が盛んな外国において海外研修を実施する。また研修成果を広く社会に発信し、次世代の畜産業従事者増加に資する啓発活動を行う。	26,991
62. 国産食肉加工品国際競争力強化等対策事業	日本ハム・ソーセージ工業協同組合	国産食肉加工品国際競争力強化に資する海外食肉加工品生産・流通等実態調査及び国産食肉加工品品質等実態調査を行い我が国の畜産振興に寄与する。	92,759
63. チーズ工房経営力向上支援事業	一般社団法人 日本チーズ協会	地域に根差し品質の高いチーズづくりを安定的に行うために、衛生管理や製造技術等の専門的知見をもつ相談員の助言や指導や、販売力向上に資するノウハウの提供を行い、チーズ工房の経営力、競争力の強化と持続的発展を図る。	11,023
小 計			4,603,930

(注) 上記の各事業は、(公財) 全国競馬・畜産振興会を通じて実施するものである。

事業名	事業実施主体	事業内容	実績額 (千円)
畜産振興事業附帯事業	本会	学識経験者からなる審査委員会を設置し、新規事業を選定するとともに、特定法人において助成金交付業務を行う。また、学識経験者からなる評価委員会を設置し、事業評価を行う。	111,238
小 計			111,238
総 計			4,715,168

【別表 11】

◎ 競走馬総合研究所等における研究について

No.	研究種類 研究分野	研究課題	事業所	担当 研究室	協力機関等
1	一 般 スポーツ科学	異なる走路上での筋活動に関する研究	競走馬総合研究所	運動科学	
2	一 般 スポーツ科学	暑熱順化プロトコルの違いによる運動パフォーマンスへの影響	競走馬総合研究所	運動科学	
3	一 般 スポーツ障害	競走馬の各種疾病に対する臨床技術の向上に資するための基礎研究	競走馬総合研究所	臨床医学 運動科学	微生物研究室 栗東トレーニング・センター 美浦トレーニング・センター 日高育成牧場 宮崎育成牧場
4	一 般 スポーツ障害	多剤耐性菌感染症に対する抗菌薬投与法の検討	競走馬総合研究所	臨床医学	
5	一 般 スポーツ障害	術部感染症に対する生体分解性抗菌薬徐放製剤の応用に関する研究	競走馬総合研究所	臨床医学	
6	一 般 伝染病対応	整腸剤及び糞便移植が抗菌薬投与後における腸内細菌叢の復元力に与える影響	競走馬総合研究所	微生物	
7	微生物	第3の馬ピロプラズマ <i>Theileria haneyi</i> 病原学的診断法の開発	競走馬総合研究所	微生物	
8	一 般 伝染病対応	馬感染症の疫学監視及び臨床微生物学的研究	競走馬総合研究所	微生物 分子生物	
9	一 般 伝染病対応	人工合成ウイルスの馬インフルエンザワクチンへの応用	競走馬総合研究所	分子生物	
10	一 般 伝染病対応	馬鼻肺炎ウイルス感染馬及びワクチン接種馬における早期免疫応答の解析	競走馬総合研究所	分子生物	
11	一 般 生産育成	競走馬の生産育成に関わる諸課題の解決ならびに各種疾病における診断・治療法及び予防法に関する研究	日高育成牧場	生産育成	日高家畜保健衛生所 北海道農業共済組合 みなみ 統括センター 日高支所 日高軽種馬農業協同組合

					栗東トレーニング・センター 美浦トレーニング・センター
12	一般 生産育成	妊娠後期のサラブレッド繁殖馬への 給与飼料内容及び運動負荷がイン スリン感受性及び糖代謝に及ぼす影 響	日高育成牧場	生産育成	
13	一般 生産育成	競走期及び繁殖におけるプロゲステ ロン類製剤の臨床応用	日高育成牧場	生産育成	
14	委 託 スポーツ科学	ウマ-騎乗者複合体の水平方向モデ ル確立に向けた研究	競走馬総合研究所	運動科学	慶應義塾大学 政策・メディア 研究科
15	委 託 スポーツ科学	暑熱順化がサラブレッドの骨格筋に 与える影響	競走馬総合研究所	運動科学	神奈川大学 人間科学部 人間 科学科
16	委 託 スポーツ障害	バイオ 3D プリント技術を用いたウ マ軟骨組織の再建技術の開発	競走馬総合研究所	臨床医学	佐賀大学 医学部 附属再生医 学研究センター
17	委 託 伝染病対応	馬の消化管寄生虫症の診断法開発 のための基礎的検討(馬の寄生虫の ゲノム情報の整備)	競走馬総合研究所	微生物	北海道大学 大学院獣医学研究 院 寄生虫学教室
18	委 託 伝染病対応	次世代シーケンシング技術を用いた 馬ウイルス感染症の遺伝子検査法 の確立	競走馬総合研究所	分子生物	東京農工大学 農学部 附属感 染症未来疫学研究センター
19	委 託 生産育成	放牧地におけるイネ科及びマメ科牧 草の草生割合が採食割合ならびに 発育に及ぼす影響	日高育成牧場	生産育成	北海道大学 大学院農学研究院 基盤研究部門 畜産科学分野 畜牧体系学研究室

【別表 12】

J R A 賞 受賞馬及び受賞者

1. 競走馬部門

	受賞馬	(馬主)	(調教師)
年度代表馬	ドウデュース	(株)キーファーズ	友道 康夫 (栗東)
最優秀 2 歳牡馬	クロワデュノール	(有)サンデーレーシング	斉藤 崇史 (栗東)
最優秀 2 歳牝馬	アルマヴェローチェ	大野 照旺 氏	上村 洋行 (栗東)
最優秀 3 歳牡馬	ダノンデサイル	(株)ダノックス	安田 翔伍 (栗東)
最優秀 3 歳牝馬	チェルヴィニア	(有)サンデーレーシング	木村 哲也 (美浦)
最優秀 4 歳以上牡馬	ドウデュース	(株)キーファーズ	友道 康夫 (栗東)
最優秀 4 歳以上牝馬	スタニングローズ	(有)サンデーレーシング	高野 友和 (栗東)
最優秀スプリンター	ルガル	江馬 由将 氏	杉山 晴紀 (栗東)
最優秀マイラー	ソウルラッシュ	石川 達絵 氏	池江 泰寿 (栗東)
最優秀ダートホース	レモンポップ	ゴドルフィン	田中 博康 (美浦)
最優秀障害馬	ニシノデイジー	西山 茂行 氏	高木 登 (美浦)
特別賞	フォーエバーヤング	藤田 晋 氏	矢作 芳人 (栗東)

2. 調教師・騎手部門

①調教師部門

最多勝利調教師	矢作 芳人 (栗東)
最高勝率調教師	田中 博康 (美浦)
最多賞金獲得調教師	友道 康夫 (栗東)
優秀技術調教師	田中 博康 (美浦)

②騎手部門

J R A 最多勝利騎手	C. ルメール (栗東)
J R A 最高勝率騎手	C. ルメール (栗東)
J R A 最多賞金獲得騎手	C. ルメール (栗東)
騎手大賞	C. ルメール (栗東)
MV J	戸崎 圭太 (美浦)
最優秀障害騎手	小牧 加矢太 (栗東)
最多勝利新人騎手	高杉 吏麒 (栗東)
特別賞	武 豊 (栗東)

3. J R A 賞馬事文化賞・功労賞

J R A 賞馬事文化賞受賞者	パリ 2024 オリンピック総合馬術 団体日本代表
	大岩 義明 氏 & MGHグラフトンストリート号
	北島 隆三 氏 & セカティンカ J R A 号
	田中 利幸 氏 & ジェファークソン J R A 号
	戸本 一真 氏 & ヴィンシー J R A 号